

文部省普通學務局長 澤柳政太郎君序
高等教育會議員 江原素六君序
東京府師範學校長 瀧澤菊太郎君序
靜岡縣視學官 梶山延太郎君序

靜岡縣視學

吉田升太郎君述

教育行政法講義

小學教育之部

一名 改正小學校令之原理及應用

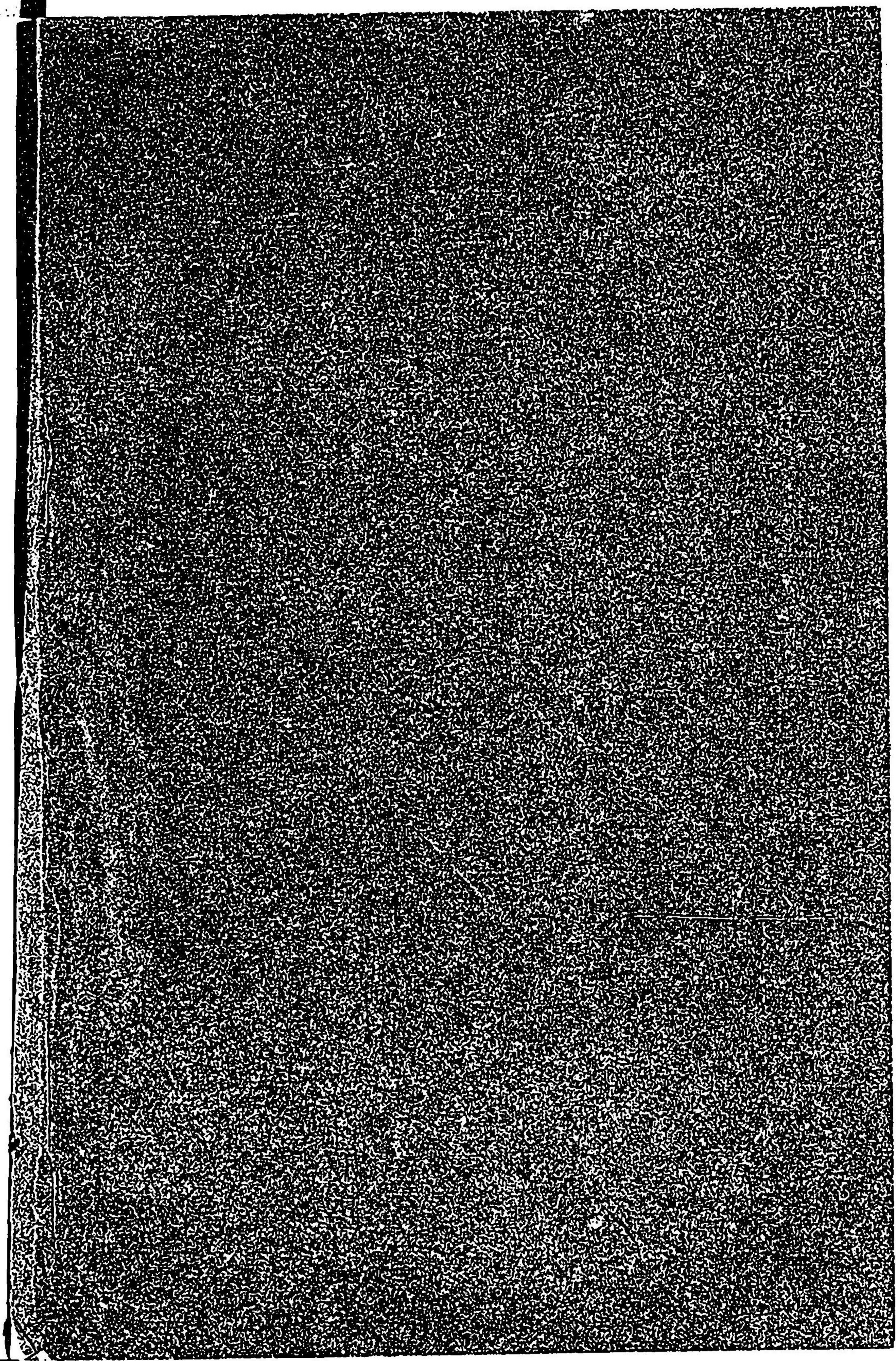
吉田升太郎著述

教育行政講義



小學教育之部

三賢堂藏版



序

近來學制に關する議論漸く盛にして或わ學制の革新と云い或わ學校の系統お改むべしと云う。若しこれらの議論にして果して公平至當の説ならんにわ教育制度改進のため裨補する所あるべく誠に喜ぶべしとせん。しかるに余の見る所お以てすれば學制に關する世論わ概ね失當不通の説のみ多きが如し。是れ教育の學理お知るものわ行政の何たるお知らず、行政の心得あるものわ教育の何たるお知らずして輕卒に論おなすに由るならん。たとえば教育學者の研究に譲り教育者

二
の自由に任すべきことお法令に規定すべしと説き、教育の學理上許すべからざることもおもなお法令お以て規定すべしと論ずるの類極めて多し。甚しきわ我國現行の教育制度の大要おも知らずして容易に學制改革の論おなすもの少しとせず。蓋し從來教育論の盛なる割合に教育行政法の講究お忽かせにしたるわその大なる原因ならん。故に余わ我國學制の改良の爲め先ず教育行政法の講究の大に盛ならんことお希望するものなり。

知人吉田升太郎君わ多年教員として兒童の教育お掌り近く數年間わ地方の視學として教育行政の事務に従事せられ、且篤學の士にして劇務に服するの餘曾て講學お怠ることなかりき。此頃教育行政法に關する一書お著して公にせんとし余に一言お求めらる。思うに君の閱歷經驗お以て此舉ある必ず能く教育行政法の趣旨お發揮して餘あるべく教育界に貢獻する所多かるべし。茲に一言お述べ君の著述に依り余の希望の幾分お達するお喜ぶと云う。

明治三十三年十月

澤柳政太郎しるす

著者云フ。澤柳先生ノ序文ハ假名遣並
其ノ字體ニツキ、先生ノ持論ヲ實行セ
ラレタルモ也。念ノ爲メ讀者ニ告ク。

天地及び其衆群中獨り人類のみ教育すべきもの教育
せざるべからざるもの也。則ち人類は教育を待つて然
る後人類たる價值を全うを得べしと斷言するも敢て
過言はあらざるべし。古今東西の邦國治績に名あるの
君相にして其教育は心を盡さざるもの未だ曾てあら
ざるなり。泰西諸國小大の世事苟も競争の精神を含有
せざる者殆んど稀なり。而して百般競争中最とも注意
を要し精神を傾け汲々として他國に後れざらんこと
を期するもの教育事業の如く甚しきものはあらざる
なり。蓋し國民の道德を上進し意思を鞏固に志智能を

啓發するは競争の根本の培養する者なればなり。而して所謂教育の基礎は全く小學教育に在るものとす。吉田升太郎君爰に見る所ありて改正小學校令に基き教育行政法の講義を草し、予は其稿を示さる。予多忙にして之を熟讀する能はずといへども、其教育界を利し國家に益するの甚だ少なからざるを信するもの也。聊か所感を記して序文に代ふ。

明治三十三年十月

江原素六

序

小學校ハ教育行政上ニ缺クヘカラサル營造物ナリ。而シテ教鞭ヲ小學校ニ執ル者ハ、實ニ國家樞要ノ普通教育ヲ施ス職務ニ從フニアラサルハナシ。故ニ其職務ヲ完ウシ蹉跌ナカラムトセハ、教育ノ原理ニ通シ教授ノ方法ニ達スルト共ニ、教育行政法ノ要領ニ明カナルヲ要ス。否ラサレハ焉ソ能ク國家カ要求スル教育ヲ第二ノ國民ニ授クルコトヲ得ムヤ。

然ルニ教育行政法ヲ論述セシ著書頗ク乏シク、是等研究者ノ便ヲ缺ケルハ豈教育界ノ恨事ニアラスヤ。

頃者知友吉田升太郎氏本書ヲ著ハシ、余ニ序ヲ需ム。氏ハ余カ嘗テ職ヲ群馬縣師範學校ニ奉セシ時、同校ニ學ヒ、爾來小學教育ニ從事スルコト多年、頗ル令聞アリ。今現ニ地方視學ノ局ニ當ル者、故ニ本書ノ説ク所、專ラ實際ノ應用ニ切實ニシテ、シカモ根據ヲ法理ノ上ニ据ウ。其教育界ニ裨補アル蓋シ多カルヘキヲ信ス。是レ余ノ喜テ本書ニ序スル所以ナリトス。

明治三十三年十月

東京 瀧澤菊太郎識ル

叙

義務教育ノ振張ハ、現今國務經營上最モ緊急ナルモノ、一ナリ。今回小學校令ノ改正ヲ見ルニ至リタルモ、其ノ基ク所蓋シ亦此ニ在リ。故ニ教育ノ職ニ在ル者ハ勿論、兒童ノ保護者タル者、能ク新令ノ意義ヲ咀嚼シ、其ノ主旨ヲ體シテ是カ實行ヲ期セサルヘカラズ。本書ハ即チ是等人士ノ爲ニ、主トシテ新令ノ精神ヲ明カニセンコトヲ勉ムルモノ、如シ。其ノ一般ヲ裨益スルコト多カルヘキハ、疑ヲ容レズ。目下新令施行ノ始期ニ方リ、是等ノ著書ノ世ニ出ツルハ斯道ノ爲ニ喜ンデ

賛同スル所ナリ

明治三十三年十月

梶山延太郎

緒言

一 本書ハ小學教育ニ關スル教育行政法ノ梗概ヲ講究セムコトヲ目的トシ、專ラ改正小學校令ニ據リ、其ノ立法ノ精神ヲ闡明シ、且實際ノ應用ヲ解説セリ。若シ夫レ組織的ノ方法ヲ採ラザリシハ、寧ロ便宜ニ從ヒタルノミ。

一 著者ノ淺學ニシテ且忙中研鑽ノ足ラサル、誤謬不備ノ點蓋シ少カラサルヘキヲ信ス。幸ニ大方識者ノ示教ヲ得、他日ヲ待テ校訂ヲ加ヘントス。看者之ヲ諒セヨ。

一本書ヲ緝カル、ニハ、著者カ別ニ編纂セル參照新學令
 彙纂ヲ參看セラレムコトヲ望ム。
 一卷頭ニ掲載セル序文ハ、著者ガ最モ畏敬セル辱知先
 輩ヨリ特ニ賜ハリタルモノニシテ、著者ノ大ニ光榮
 トスル所ナリ。茲ニ謹テ感謝ノ意ヲ表ス。

静岡ニ於テ

明治三十三年十月

吉田升太郎識ス

目次

緒論	一頁
本論	一一
<small>小學校令</small>		
第一章 總則	一一
第二章 設置	一一
第三章 教科及編制	四二
第四章 設備	六二
第五章 就學	六七
第六章 職員	九〇
第七章 費用負擔及授業料	一〇〇

第八章 管理及監督……………一二八

第九章 附則……………一四一

結論……………一五〇

附錄

一文部大臣ノ訓令……………一頁

一 地方學事通則……………一〇

一 市町村立小學校長及教員名稱及待遇……………一六

一 明治三十年勅令第二號……………一七

一 市町村立小學校教育費國庫補助法……………二三

一 市町村立小學校教員加俸令……………二四

一 退隱料等ニ關スル重ナル法令……………二六

目次終

教育行政法講義 小學教育之部

吉田升太郎述

緒論

教育事務ハ國民ノ精神的生活ニ關スル國政事務ノ一ナリ。抑モ國家ガ國民ノ精神的生活ノ保護發達ヲ圖ル所以ノモノハ、國家自ラノ生存發達ニ至大ノ關係ヲ有スレバナリ。然而シテ國家ハ其ノ必要ヨリシテ或ル程度ノ教育ヲ必ず受クベキコトヲ國民ニ要求ス。是レ所謂義務教育ニシテ、其ノ目的ヲ達スルニハ、主トシテ小學校ト名クル營造物ナル行政上ノ一ノ手段ニ依ル。故ニ小學教育事務ハ國政事務中樞要ノ位置ヲ占ムルモノトス。

サレバ國家ハ自ラ小學校ト名クル營造物ヲ經營スルヲ本則トス。然レドモ、分權ノ原則ニ依リ、及ビ學制頒布以來ノ沿革ニ基キ、其ノ設置ニ關シテハ之ヲ市町村ナル自治團體ニ負ハシムル原則ヲ採用シテ、明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令ヲ制定發布セラレタリ。

市制、町村制ハ市町村カ自治スベキ方法範圍等ヲ規定シタルモノニシテ、中ニ又國政事務ヲ委任セラルベキコトヲ規定ス。而シテ教育ニ關スル國政事務ノ委任ニ就キテハ、全法律中何等規定セル條項アラサルハ、蓋シ其性質格別ノ規定ヲ待ツベキヲ以テナリ。

小學校令ハ即チ義務教育令也。獨英諸國ニ在リテハ義務教育法ハ法律ヲ以テ規定スレトモ、我國ニ在リテハ憲法

第九條ニ依リテ勅令ヲ以テ規定セラレタルナリ。然レトモ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得サレバ、市制町村制中ノ條規ヲ變更スルヲ要スル点ハ、特ニ地方學事通則ナル法律ノアルアリテ、小學校令ニ其ノ根據ヲ與フ。

斯ク小學校ノ設置ヲ市町村ニ委任スルヨリシテ、市町村立小學校ハ國ノ營造物タル性質ト、市町村ノ營造物タル性質トヲ兩有セリトノ見地ヲ以テ、余リニ多ク分權ノ原則ヲ應用シ、市町村ノ小學校ニ對スル權義ヲ認ムルコト大ニ過ギ、爲メニ其ノ教員ノ任用ニ關スルコト、給料ヲ定ムルコトノ如キサヘ市町村ノ意思ニ重キヲ置キタル觀アリキ。從テ教員ハ市町村ノ吏員ト同様ノ姿ナキニシモアラサリキ。

然レトモ事實ハ此ノ兩端ノ原則ニ基キタル規定ヲ改メシムル必要ヲ生シ、明治廿六年十二月ノ小學校教員任用令ノ發布トナリ、明治三十年九月ノ其ノ改正トナリ、及ヒ明治三十年勅令第二號教員俸給ニ關スル規定ノ發布ヲ見ルニ至リ、以テ其ノ教員ニ關スル規定ノ原則ヲシテ小學校令發布當時ノモノト相違アラシメタリ。

而シテ此点ノ改正ニ於テ、既ニ小學校令ヲ一貫セル精神ヲ失ハシメタリ。從テ他ノ條章ノ實際施行上支障多カリシハ止ムヲ得ザリシ也。

今回改正セラレタル小學校令ニ於テハ、市町村立小學校ハ國ノ營造物タル原則首尾ヲ一貫シテ、其ノ精神ヲ爲シ、其ノ營造物ヲ組成スル所ノ物、即チ校地校舍等ニ關シテハ、市町村ノ權義ヲモ認メ、人即チ教員ニ關シテハ其費用ヲ市町村ニ負ハシムルニ拘ハラズ、國家自ラ其權義ヲ把持スルニ努メタルコトヲ見ル。是レ實ニ法理的見解ニ於テ改正小學校令ノ大ニ改良シタル特点ナリトス。就學ニ關スル規定ヲ全國畫一ニナセル如キ、又授業料ノ不徵收ヲ本則トナセル如キハ、以テ國家力大ニ義務教育ノ勵行ヲ圖ル旨趣ヲ明瞭ナラシメタルヲ見ルベシ。

其他教科目ニ關スルモノ、修業年限ニ關スルモノ、圖書審查委員會ノ組織、教員配當ニ關スルモノニツキテノ改正ノ如キハ、要スルニ時運ノ進歩ニ伴ヒタルト、其必要トニ促サレタルトニ、外ナラスト謂フヘシ。

尙卷末附スル所ノ文部省訓令第十號ヲ參看ス可シ。

小學校令ハ初等教育ニ關スル行政法ノ淵源ナレバ、余輩ハ小學校ニ關スル教育行政法ヲ講スルニ當リ、專ラ改正小學校令ニ據リ、逐條ニツキ其ノ法理ヲ拆キ其ノ精神ヲ尋ネ、且實施上切實ナル解釋ヲ加ヘ實用ニ資スル所アラムヲ期シタリ。

(註)

可リヤ何性テコズニル充ハノ營
 ナ得サナ質其レ、アモ分未解
 リバ知リノニ唯ヲノナダ種

(一)營造物ナル概念中ニ含ム主要ノ觀念左ノ如シ。一、其ノ物ガ形体ヲ變スルコトナク直接ニ國家公共ノ利益ニ供ヘラル、コト、即チ國家公共ノ使用ニ供セラルコト。二、國家ノ命令權ノ作用ニヨル官廳ノ如キモノニアラザルコト。三、國政事務ノ上ニ一ノ利用セラルベキ手段トナルコト。營造物ハ單ニ物ヨリ成立スルモノアリ、道

路橋梁ノ如キモノ是レ也。又物ト人トヨリ成立スルモノアリ、鉄道、電信、學校ノ如キ是レ也。營造物ノ公私ノ區別ハ其物ノ用法ニ依ルモノニシテ、其ノ物ノ所有權ノ何レニ屬スルカハ問フ所ニアラズ。サレバ物ハタトヒ一私人ノ所有ニ屬スルモ公ノ營造物タルヲ妨ケズ。小學校ハ、國ガ小學教育事務ヲ行フ一ツノ手段ニ供セラル、モノニシテ、物即チ校舎校具等ト、人即チ教員ト相俟テ始メテ直接ニ公衆ノ用ニ供セラル、モノナリ。即チ國家ガ要求スル教育ヲ兒童ニ授クル爲メノ營造物ナリトス。校舎等ハ財産ナレトモ、小學校ハ財産ニアラス。故ニ所有セラルヘキモノニアラスシテ、物ト人トヨリ成ル營造物ニシテ管理セラルベキモノナリ。

校舎等ハ市町村ノ所有タルモ、國ノ營造物タル性質ニ妨ケナシ。

(ろ)分權ノ原則

國政事務ノ性質ニ依ツテ國家カ其一部ヲ他ノ行政ノ主体即チ自治團體等ニ委任スルコトヲ得ベキナリ。上級官廳カ下級官廳ニ或ル權限ヲ委任スルハ此ノ原則ニヨルモノニアラス。

(は)市制(第三十條)町村制(第三十二條)ニ曰ク

市(町村)會ハ其市(町村)ヲ代表シ此法律ニ準據シテ市(町村)ニ關スル一切ノ事件並ニ從前特ニ委任セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セラル、事件ヲ議決スルモノトス。

故ニ市町村事務ハ分レテ二トナル。一、固有ノ共同事務。二、委任事務(國ヨリ委任セラレタルモノ。縣又ハ郡ヨリ委任セラレタルモノ。)

(に)憲法第九條ニ曰ク

天皇ハ(甲)「法律ヲ執行スル爲メニ」又ハ(乙)「公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及ビ臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メニ」必要ナル命令ヲ發シ(是レ勅令)又ハ發セシム。(閣令、省令、府縣令等)但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス。右乙ニ依リ義務教育ノコトヲ勅令ニテ命令セラレタル也。

(は)舊小學校令第五十九條ニ、「教員ハ市町村長ニ於テ薦舉スル所ノ三名以下ノ候補者ニ就キ府縣知事之ヲ任

スルモノトス云々」ノ規定アリ。

(へ) 教員ノ任用ハ郡市長ノ薦舉ニヨリ詮衡委員ノ詮衡ヲ經テ任用スル規定。

(と) へノ詮衡ノコトヲ除ク。

(ち) 小學校教員俸給ニ關シ市町村ノ義務額ヲ定メタル規定。(現行)

本論

小學校令

(明治三十三年八月 勅令第三百四十四號)

今回ノ小學校令ハ舊令ノ改正ナレハ、舊令ノ規定ニ依リ現ニ施行セラレツ、アルモノハ、新令ノ規定ニ牴觸セサル限り之ヲ改ムルヲ要セサルヲ原則トス。例エハ尋常小學校ノ如キ、既ニ舊令ニ依リ指定セラレ設置シアルモノハ、新令發布ノ爲ニ廢止セラレスシテ、依然存續ス。然ルニ明治二十三年ノ小學校令ハ新定ニシテ、明治十九年ノ小學校令ノ改正ニハアラサルナリ。故ニ其ノ名ハ同シク小學校令ナレトモ、其ノ實ト形トヲ異ニスルモノナリ。從テ其ノ實施ト共ニ舊令ハ全ク廢止セラレタリ。依テ以

今回發布ノ小學校令ハ舊令ノ改正ナレハ、舊令ノ規定ニ依リ現ニ施行セラレツ、アルモノハ、新令ノ規定ニ牴觸セサル限り之ヲ改ムルヲ要セサルヲ原則トス。例エハ尋常小學校ノ如キ、既ニ舊令ニ依リ指定セラレ設置シアルモノハ、新令發布ノ爲ニ廢止セラレスシテ、依然存續ス。然ルニ明治二十三年ノ小學校令ハ新定ニシテ、明治十九年ノ小學校令ノ改正ニハアラサルナリ。故ニ其ノ名ハ同シク小學校令ナレトモ、其ノ實ト形トヲ異ニスルモノナリ。從テ其ノ實施ト共ニ舊令ハ全ク廢止セラレタリ。依テ以

テ三小學校令ノ關係ヲ知ルヘキナリ。

第一章 總則

第一條

小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並其ノ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス
本條ノ圖解左ノ如シ。

舊令ノ第一條ノ第一句ニ「是レモシテ」ト云フハ、舊令ノ第一條ノ第一句ニ「是レモシテ」ト云フハ、舊令ノ第一條ノ第一句ニ「是レモシテ」ト云フハ、

小學校ノ本旨

一、(道德教育)ノ基礎………

二、(國民教育)ノ基礎………

三、生活ニ必須ナル普通ノ知識技能………

ヲ授クルコト。

右一、二、三、ノ孰レヲ重シトシ孰レヲ輕シトスルカハ、一概ニ言ヒ去リ得ヘキモノニアラス。之ヲ要スルニ体育德育(情育意育)智育ノ各方面ニ向テ調和ヲ保ツヘキコト肝

更スヘキ餘地ハナレ

要ナリトス。

兒童身軀ノ發達ニ留意スルトハ、兒童身心發達ノ理法ニ從ヒ、苟モ其ノ妨害トナルヘキモノヲ避ケシメ其レヲ保護シ其ノ發達ヲ遂ケシムル様ナスヲ云フ。例エバ學校衛生ニ注意スルコト、教科ヲ過重ニナサル、コトノ如シ。道德教育トハ、先ツ善人タルヘキ教育ヲ指シ、國民教育トハ我帝國臣民タルベキ精神品性ヲ養フヘキ教育ヲ指ス。小學校ノ教科目中修身ハ道德教育及國民教育ノ爲メノ教科目ニシテ、國語ノ如キハ其ノ知能教育ノ爲メノ教科目タルト共ニ、亦大ニ國民教育ノ爲メノ教科目ナリトス。生活ニ必須ナル知識技能トハ、之ヲ概言スレハ、治產業ニ堪フヘキ諸般ノ知識ト其智識ヲ運用スル能力并ニ才

藝ヲ指ス。

小學校ノ本旨ハ夫レ斯ノ如ク明瞭ニシテ、中學校大學校ノ爲メニ豫備教育ヲ施ス所ニアラス。實ニ國民學校タル也。尤モ教育上ノ系統ヨリ中等教育ハ初等教育ノ上ニ立ツベク、專問教育ハ亦其上ニ立ツベキ本然ノ性質アルヨリシテ、小學校ハ中學校ノ豫備タル性質ナキニアラサレド、是レ中學教育ノ方ヨリ小學校ノ教育ヲ豫備トナスモノニシテ、小學校カ中學校ノ豫備ノ爲メニ存スルニハアラス。

第二條

舊令第

ズ。

各教科目ハ本條ニ示シタル本旨ヲ達スル爲メニ外ナラズ。

二條ト
少シク
異同
アリ

小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トス

尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併置スルモノヲ尋常高等小學校トス

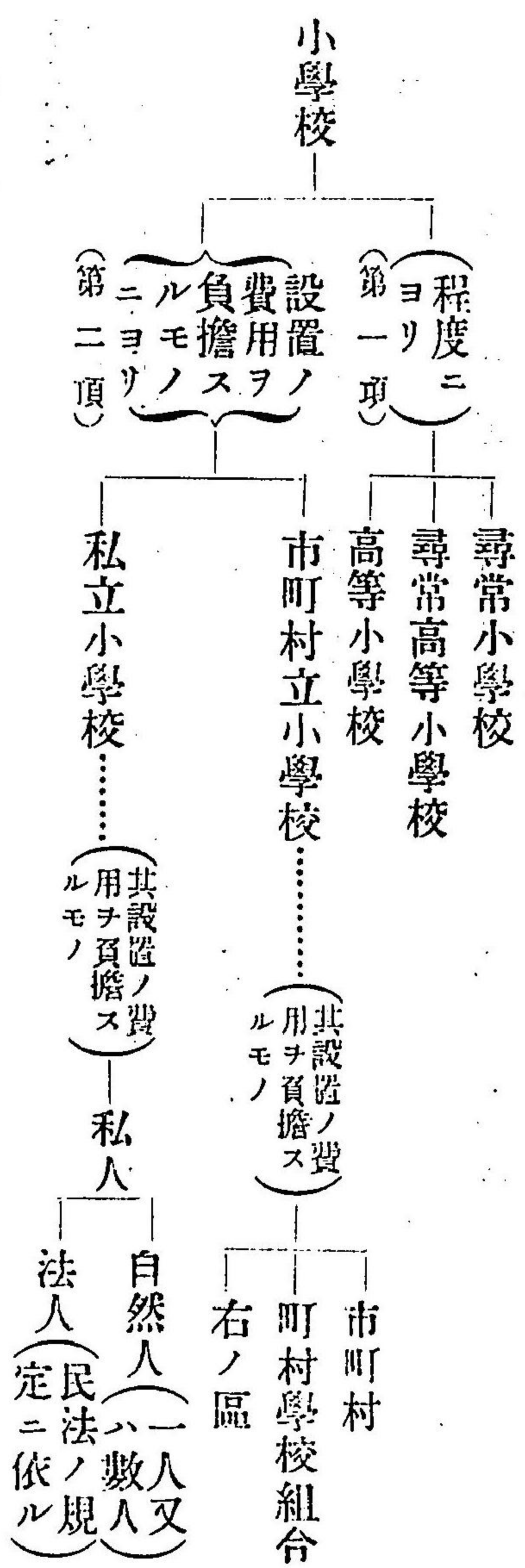
市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ノ負擔ヲ以テ設置スルモノヲ市町村立小學校トシ私人ノ費用ヲ以テ設置スルモノヲ私立小學校トス

小學校ヲ尋常學校、高等學校ノ二ニ別ツコト舊令ノ如シ。固ト小學校ハ總テ義務教育ヲ施ス所トナスヲ通理トスレトモ、我國教育ノ沿革并ニ現況ノ之ヲ許ササルモノアレハ、義務教育ノ年限ニ一致セシメテ之ヲ區別シ義務教育施行ノ便宜ヲ圖リタルニ外ナラズ。尙尋常高等小學校ノ名ヲ本令ニテ認メタルハ、從來ノ不文ヲ成文ニ爲シタルニ止マラス。後來義務教育ノ年限ヲ延長スル下地トシ

テ、尋常高等小學校ノ設置ヲ大ニ促サンカ爲メノ微意ノ存スルアルヲ見ル也。文部大臣ノ訓令修業年限ニ關スル段ヲ參看スベシ。

小學校ハ國ノ營造物トシテ、國ノ自ラ設置スルヲ要スベキモノナレトモ、其設置ニ關スル費用ヲ市町村ニ負擔セシムル原則ヲ探レルカ故ニ、市町村立小學校ナルモノ存スルナリ。サレバ市町村ハ國ノ委任ヲ受ケ之レニ代ハリテ、小學校ヲ設置スル費用ヲ負擔スル也。從テ國政事務タル教育事務ニツキ國ヨリ委任セラル、モノ少カラス。又其首長タル市町村長ニ委任セラル、モノ少カラス。又市町村立小學校ハ其設置ノ費用ヲ市町村ニ仰ケハトテ市町村ノ營造物ニハアラス。而シテ又國ノ營造物タル性

質ニ妨ケナキ也。又私人カ小學校ヲ設置スルハ「教育ノ自由ナル」原則ヨリ出テタルモノナリ。然レドモ小學校ノ性質タル一般ノ私立學校トハ大ニ異ナルモノアルハ、明白ナレハ、私立學校令ノ外、尙小學校令ノ支配ニ從フベキモノトス。今本條ヲ表示セン。



舊令ニハ此規定ナシ

第三條

尋常高等小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ尋常小學校ノ規定ヲ準用シ高等小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ高等小學校ノ規定ヲ準用ス但シ文部大臣ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

本條ノ規定ハ尋常高等小學校ヲ法ノ上ニテ認メタル結果ナリ。今設置ノ例ヲ舉ケムニ、尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ尋常小學校設置ノ規定ヲ準用スベキヲ以テ第六條第九條等ニ依リ、高等小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ高等小學校設置ノ規定ヲ準用スヘキヲ以テ第十四條ニ依ルガ如シ。其ノ但書ノ必要ナル一例ハ、設備準則中体操場ノ坪數ニ就キテノ規定ノ如シ。

準用ト適用ト

準用ト適用ノ區別ヲ說カムニ、「適用ス」ハ其儘アテハメ得ル場合ニ起リ、「準用ス」ハ其形チヲ變シテアテハメル場合ニ起ル。例エハ尋常高等小學校ノ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ハ尋常小學校ニハアラス。故ニ其儘アテハメ得ベカラス。依テ準用ノ字ヲ用フ。尤モ適用ノ文字ヲ用ヒタルモノニテ準用ノ意ニテ解釋スヘキモノナキニアラズ。例エハ地方學事通則第一條第二項ノ町村學校組合ニハ町村制第百十七條ヲ適用ストアルハ「準用ス」ト見テ解クヲ要スルカ如シ。

第四條

町村組合ニシテ其ノ町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ之ヲ一町村ト同視ス

舊令第十五條ノ字ニシテ修正シ本條ニ移ス

セルナ
リ

本條ノ規定ナキトキハ甲乙兩村ヨリ成ル町村組合アリトセムニ、學校設置ニ關スル義務ハ甲村乙村別々ニテ負擔スルコトトナリ、從テ町村學校組合ヲ設ケシムルノ必要起ルコトアルベシ。此ノ如キハ實ニ無用ノ手數ナリ。故ニ本條ノ規定アリ。

第五條

幼稚園、盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ規程ニ關シテハ本令中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外文部大臣之ヲ定ム

幼稚園盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ハ、其性質程度小學校ニ類スルモノアルヲ以テ、小學校令ノ規定ヲ準用シ得ベキモノアリ。即チ之ヲ本令中ニ規定シ其他ハ之ヲ文部大臣ノ規定スル所ニ委シタル也。

舊令ニ
テハ第
四至十
乃及第
四第二
條及第
九條第
條ニ關
テハ規
定スル
ホアリ
似タ

本令中ニ規定アルハ、唯第十七條ノミニシテ、其ノ設置廢止ニ關スルコトヲ規定セシモノ也。
又曰ク小學校ニ附設スルコトヲ明カニ認メタリ、舊令ニハ明文ナシ。

第二章 設置

第六條

市町村ハ其ノ區域内ノ學齡兒童ヲ就學セシムルニ足ルヘキ尋常小學校ヲ設置スヘシ

國カ義務教育ヲ國民ニ強制スルニハ、其之レヲ授クベキ教育場(行政上ノ手段タル營造物)ヲ設ケサルヘカラス。而シテ學齡兒童ニシテ就學ノ始期ヨリ終期マテノ間ニ在ルモノハ悉ク之ヲ收容スルニ足ルヘキ規模ノ準備ヲ爲

市制第十條
町制第十條
第三條
第二條
第一條
第八頁
第九頁
第十頁

サ、ルヘカラス。
國ノ設置ス可キ小學校ノ内、尋常小學校ハ國ニ代リテ、國
カ要スルダケ之ヲ設置スベキコトヲ市町村ニ委任シタ
ルナリ。法文設置スベシノ「ベシ」ニ注意セヨ。
市町村ハ其ノ設置ニツキテ何等ノ負擔ヲ爲スヘキカハ
第七章第五十一條ニ於テ之ヲ示シタリ。
本條ハ實ニ本章ノ骨子ナリ。第七條乃至第十四條ハ其變
例ヲ規定セルナリ。

第七條

郡長ハ一町村ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘスト認メタル
トキハ其ノ町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシムヘ
シ

第十條
參看ス
要ス

地方學
事通則
第一條
抄録

町村學校組合ハ地方學事通則第一條ニ依リ勅令ノ規定
ニヨリテ始メテ設クルヲ得ベキ也。而シテ其町村學校組
合ヲ設クルニハ、町村制第一百七條ノ第二項ヲ準用スヘ
キモノナリ。即チ「郡長ヨリ町村學校組合ヲ設クベキコト
ヲ命セラレタルトキハ」ヲ「前條第二項ノ場合ニ於テハ」ノ
字句ノ位置ニ置キ換ヘテ見ルヘシ。

地方學事通則

町村ハ教育事務ノ爲勅令ノ規程ニ依リ町村學校組合ヲ設ク
町村學校組合ニハ町村制第一百七條ヲ適用ス

町村制第一百七條 町村組合ヲ設クルノ協議ヲ爲ストキハ(第百十六條第一項)組合會議ノ組織事務
ノ管理方法並其費用ノ支辨方法ヲ併セテ規定ス可シ

(町村制第百十六條第一項) 數町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メ其協議ニ依リ監督官廳ノ許可ヲ得

テ其町村ノ組合ヲ設ケルコトヲ得

前條第二項ノ場合ニ於テハ其關係町村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法及其他必要ノ事項ヲ規定ス可シ若シ其協議整ハサルキハ郡參事會ニ於テ之ヲ定ム可シ

(町村制第十六條第二項 法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪フ可キ資力ヲ有セサル町村ニシテ他ノ町村ト合併(第四條)スルノ協議整ハス又ハ其事情ニ依リ合併ヲ不便ト爲スルハ郡參事會ノ議決ヲ以テ數町村ノ組合ヲ設ケシムルヲ得)

第八條

郡長ハ一町村ニ於テ就學セシムヘキ兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認メタルトキ又ハ適度ノ通學路程内ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認メタルトキハ左ノ例ニ依ルヘシ

- 一 其ノ町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシムルコト

第十條 要スル地方學地事通則 町村及 町村組合 若クハ 郡區 其ノ他 郡長 指定 他

町村及 町村組合 若クハ 郡區 其ノ他 郡長 指定 他 從指郡其若校町町第地要スチ第十 他ニノハハ合學及條則學方スルヲ

二 其ノ町村ヲシテ就學セシムヘキ兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村、町村學校組合又ハ其ノ區ニ委託セシムルコト

郡長ハ町村ノ一部ニシテ前項ノ事情アルモノ其ノ町村ノ尋常小學校ニ對シ適度ノ通學路程内ニ在ラスト認メタルトキハ亦前項ノ例ニ依ルヘシ

郡長ハ町村學校組合ノ一部ニシテ前項ニ準スヘキ事情アリト認メタルトキハ第一項第二號ノ例ニ準スヘシ

本條ノ根據ハ地方學事通則第一條第四條及第五條ナリ
圖解左ノ如シ。
(上段ハ事情下段ハ處置)

童ニ對シテハ
十テハ
三町ニ
度ヲ適
ヘシト
トス

(い) 一町村ニ於テ就學セシムヘキ兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認メタルト(郡長ニ於テ)

(ろ) 一町村ニ於テ適度ノ通學路程内ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認メタルトキ(郡長ニ於テ)

(は) 町村ノ一部ニシテ前項(ろ)ノ事情アルモノ其町村ノ尋常小學校ニ對シ適度ノ通學路程内ニ在ラスト認メタルトキ(郡長ニ於テ)

(に) 町村學校組合ノ一部ニシテ(は)ニ準スヘキ事情アリト認メタルトキ(郡長ニ於テ)

右(い)ハ小ナル町村又ハ町村組合一切ノ事ヲ共同處分スル(に)起ル事情(ろ)ハ人口稀薄ナル大ナル町村、又ハ町村組

町村學校組合ヲ設ケシム
就學セシムヘキ兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他ニ委託セシム(へ)

合ニ起ル事情ニシテ、(は)ハ即チ一町村ニ數部落アリテ孰レノ所ニ小學校ヲ置クモ、或ル一部落又ハ數部落ニアル兒童ノ通學路程外トナリ、サリトテ其部落ニ對シテ一尋常小學校ヲ設置スル能ハサルコト(い、ろ)アリ、カ、ル場合ヲ指ス、(に)ハ(は)ノ一町村カ一町村學校組合タル場合ナリ。此ハ既ニ町村學校組合ヲ爲シ居ルモノナレハ、教育事務委託ヲナスヨリ外ノ途ナシ。尤モ組合ヲ解キテ適當ノ組合ト爲ス場合モアラム。尙(は)ノ場合ヲ一例ヲ舉ケテ示サムニ、



前圖ノ如キ町村アリテ、甲部分ハ一尋常小學校ヲ有スレトモ、乙部分ハ兒童數一校ヲ構成スルホトアラサルカ、又ハ兒童數ハ相當ニアリトモ、川流等カ自然ニ部落ヲ分チ、一校ヲ置クモ通學困難ナルカノ場合ノトキニハ、乙部ノ兒童ノ教育事務ヲ隣接セル某村ニ委託セシムルカ、若シクハ全村ヲ舉ケテ他町村ト學校組合ヲ設ケシムルカノ慮置ヲナスベシ。尤モ此ノ場合ニハ費用ノ負擔ニ關シテハ第十二條ノ規定アルガ故事實不便アルコトナシ、例エハ學校組合ノトキニハ之ヲ二區ニ分チ甲ヲ一區トナシ某村ト乙トヲ合セテ全一ノ區トナシ、某村ノ或ル學校ノ費用ノ負擔ヲ某村ト乙トニテ負擔セシメ甲ニハ其學校タケノ費用ヲ負擔セシムルコトアルカ如シ。

町村學校
組合
ヲ設ケ
シムル
場合

町村學校組合ヲ設ケシムル場合、ハ第七條ト第八條トニ規定セル外ナシ。舊令ニテハ第三十三條ニ於テ比較的優等ナル尋常小學校ヲ設置スル爲メ協議ノ上、設クル町村學校組合ヲ認メタレトモ、新令ニテハ之ヲ認メス。皆強制的ノモノノミトセリ。但シ舊令第三十三條ニヨレル既設ノモノニツキテハ、第六十九條ノ規定アリテ、明治三十八年三月三十一日マテ之ヲ存續スルコトヲ得。

第九條

市立尋常小學校ノ校數並位置ハ府縣知事ニ於テ市ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ
町村立尋常小學校ノ校數並位置ハ郡長ニ於テ町村又ハ町村學校組合ノ意見ヲ聞キ之ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

小學校ノ數並ニ其ノ位置ハ大ニ就學ノ便否利害ニ關ス。

市町村ヲシテ任意ニ決定セシムルハ義務教育施行上ニ便ナラス。故ニ國ニ於テ之ヲ定ムルヲ原則トシ、知事又ハ郡長ヲシテ之ヲ行ハシメ、又市町村カ其設置ノ義務ヲ負擔セルヨリシテ、其權義ヲ認メ其意見ヲ聞クコト、ナセルモノトス。」本條ニヨル位置指定ハ、學校ノ校地体操場ニ充ツヘキ市町村大字、字、地番ヲ確然ト指定スルヲ云フ。從テ校地等ノ増減ハ位置ノ變更ト見做サルヘキナリ。

第十條

第七條又ハ第八條ニ依リ郡長ニ於テ町村學校組合ヲ設ケシメ若ハ其ノ組合ヲ解カシメムトスルトキハ關係町村ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ
第八條ニ依リ郡長ニ於テ兒童教育事務ヲ委託セシメ又ハ其ノ委託ヲ止メシメントスルトキハ、關係町村町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ

受クヘシ

其ノ意見ヲ聞クノ趣意ハ前條ニ説ク所ニ依リテ推知スヘシ、

第十一條

府縣知事ハ市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ市内ノ一區若ハ數區ニ對シ又ハ市ヲ分畫シテ數區ト爲シ其ノ一區若ハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ヲ爲其ノ使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ關係市及區ノ意見ヲ聞クヘシ其ノ之ヲ止メムトスルトキ亦同シ
郡長ハ町村若ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ、兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所數箇所アルトキ又ハ其ノ設置スヘキ尋常小學校ト兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所トアルトキハ町村内若ハ町村學校組合内ノ一區若ハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル費用ノ負擔又ハ兒童教育事務委

地方學事通則 第二條

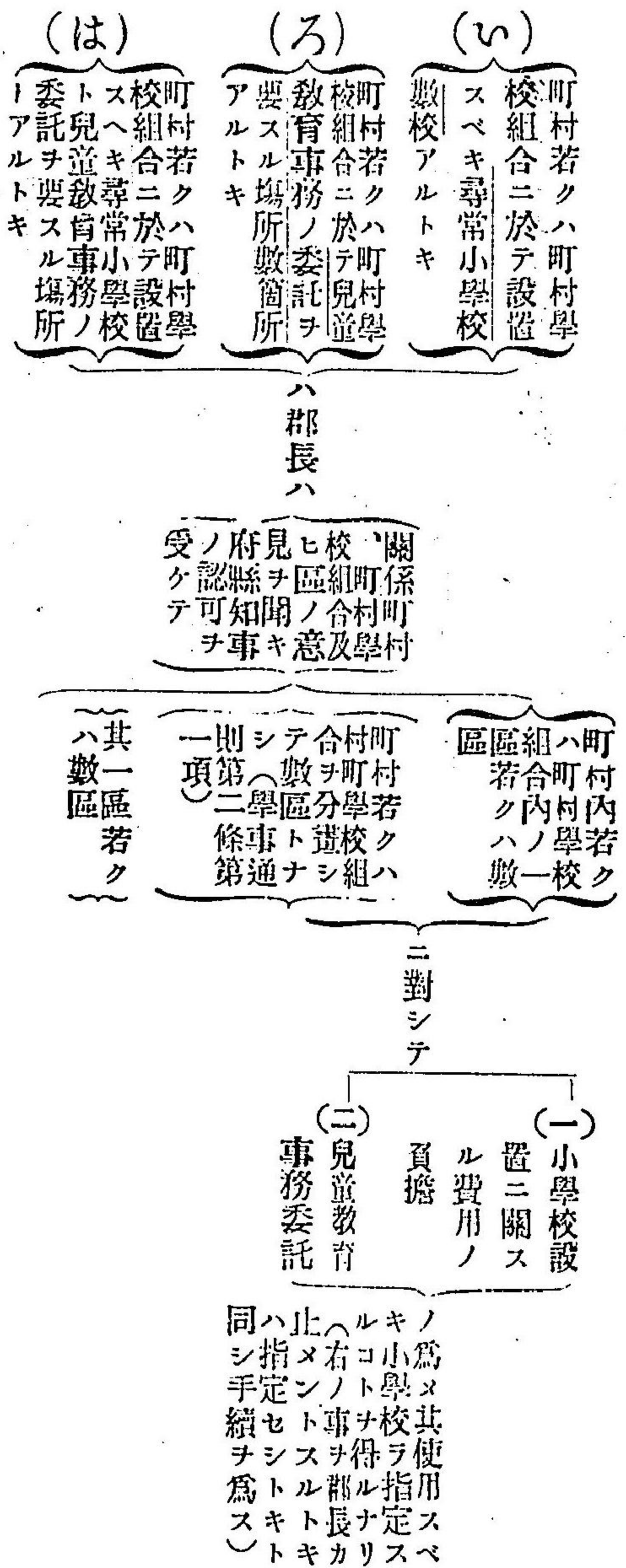
託ノ爲其ノ使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ關係町村町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ止メムトスルトキ亦同シ

本條ノ趣旨ハ市町村、町村學校組合ノ各部ヲシテ各別ニ尋常小學校設置又ハ兒童教育事務委託ノ費用ヲ負擔セシムルニ出テ、知事郡長カ之ヲ爲スハ第九條ノ立法ノ趣旨ト異ナラス。

本條ノ根據ハ地方學事通則中、左ノ條項トス。

第一項 市町村及町村學校組合ハ勅令ノ規程ニ依リ小學校教育事務ノ爲之ヲ數區ニ分畫ス

第三項 一區若クハ數區ヲシテ專ラ使用セシムル小學校ニ關シテハ其區内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業（店舖ヲ定メサル行商ヲ除



ク）ヲナス者ニ於テ設立維持ヲ負擔スヘシ但其區ノ所有財産アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツヘシ

第二項ノ圖解左ノ如シ。

第十二條

府縣知事ハ第七條及第八條第一項ノ事情アルモ同條及第五十三條並第五十四條ニ依ルコトヲ得スト認メタルトキハ其ノ町村ヲシテ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免レシムルコトヲ得

府縣知事ハ第八條第二項又ハ第三項ノ事情アルモ同項及第五十三條並第五十四條ニ依ルコトヲ得スト認メタルトキハ其ノ町村若ハ町村學校組合ヲシテ其ノ一部ニ關シテハ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免レシムルコトヲ得

義務教育ヲ遂行スル爲、兒童ノ就學スヘキ場所ヲ準備スルニツキテハ前諸條ヲ以テ。學校ノ設置設置等ニ關シ市町村ヲシテ出來ヘキ限リノ方法ヲ盡スノ途ヲ設ケ、且ツ第五十三條第五十四條ノ規定ニヨリテ郡若クハ府縣ヨ

リ其ノ費用ノ補助ヲ爲スヘキ途ヲ設ケアルモ、或ハ孰レノ方法ニモ依ルコト能ハスシテ、尋常小學校ヲ設置スルコトモ出來ス、又兒童教育事務委託ヲ爲ス能ハサル場合ナキニシモアラス。本條ノ規定ハ實ニ此ノ如キ場合ヲ認メタルナリ。

本條第一項ヲ圖解スルコト左ノ如シ。(第八條ノ圖表參看)

第七條及ヒ第八條ノ第一項(圖解ノ(い)(ろ)ノ事情アルモ、同條ニ依ル能ハス、即チ學校組合モ設ケシムルコトモ出來ス、去リトテ第五十三條第五十四條ニ依リ補助ヲ爲セハトテ到底尋常小學校ヲ設置スルコトモ出來ス、(ろ)ノ如キ場合)又兒童教育事務委託モ出來ヌ場合ナキニアラス。

例ヲ舉ケムニ、極メテ人口稀薄ニシテ土地廣キ僻陬ノ村落カ隣接シテ數個アリト仮定セヨ。(イ)カ(ろ)カノ事情ハ必然ニシテ、然カモタトヒ町村學校組合ヲ設ケシムルトモ亦其町村學校組合カ(ろ)カ(い)ノ事情ナキニアラス。カ、ルトキハ費用ノ補助ヲ爲スモ補助ニハ限リアリ到底其ノ効ナシト認メサルヘカラス。

右ノ場合ニ至リテハ萬策玆ニ盡キタルナリ。即チ當該町村カ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ヲ爲サルコトヲ正當ニ認メ、其ノ義務ヲ免スルナリ。

本條第二項ハ第一項ノ解ニ準シテ了解スヘシ。尤モ第八條ノ第二項(は)第三項(に)ノ事情ハ其町村又ハ町村學校組合ノ一部分ニ關スルコトナレハ、其一部ニ關シテノミ、當

小學校
施行令
則施行
規程
八章
規定
ニテ

該町村又ハ町村學校組合ノ義務ヲ免セラル、也。

右ノ處分ハ重大ノ事ナルカ故府縣知事ニ於テ之ヲ爲スモノトス。

第十三條

府縣知事ハ特別ノ事情ニ依リ市立尋常小學校ノ設置又ハ其ノ一部ノ設備ヲ猶豫シ市内ノ私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

郡長ハ特別ノ事情ニ依リ町村立尋常小學校ノ設置若ハ其ノ一部ノ設備又ハ兒童教育事務ノ委託ヲ猶豫シ町村若ハ町村學校組合内ノ私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

私立小學校代用ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

特別ノ事情トハ府縣知事又ハ郡長ノ認ムル所ニヨルノミ。私解ヲ試ムヘキニアラス。一部ノ設備ヲ猶豫ストハ校

舍狹隘ナル場合ニ於テ増築ヲナスコトヲ猶豫スル如キコトヲ指ス。

第十四條

市町村ハ市町村又ハ其ノ區ノ負擔ヲ以テ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得町村ハ數町村ノ協議ニ依リ町村學校組合ヲ設ケ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得

前項ノ町村學校組合ヲ設ケ又ハ之ヲ解カムトスルトキハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

郡長ハ前項ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ
高等小學校ハ國カ強制的ニ其ノ設置ヲ市町村ニ命セス。
從テ其ノ設置ハ市町村カ之ヲ爲スモ、其ノ區カ之ヲ爲スモ將タ又町村學校組合ヲ設ケテ之ヲ爲スモ、其ノ自治ノ

意思ニ任セタルナリ。然レトモ其ノ設置シタル高等小學校ハ國ノ營造物タルナリ。

第十五條

市町村立高等小學校ノ設置及廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

抑モ尋常小學校ハ國カ依リテ以テ義務教育ヲ行フ營造物ナルカ故ニ、國カ強制的ニ其設置ノ義務ヲ市町村ニ負擔セシメシモ高等小學校ハ一ニ市町村ノ希望ニ基キテ以テ其設置ノ費用ヲ負擔セシムルコトトセル也。

高等小學校ヲ設置スル爲メノ町村學校組合ハ、町村ノ協議ニ出ツルモノナレハ地方學事通則第一條ニ依リ町村制第十七條ノ第二項ヲ準用ス可キモノトス。尤モ其ノ之ヲ設クルニツキテモ、之ヲ解クニツキテモ、本令ニ特別

第七條ノ釋義
中ヲ參
看セヨ

ノ規定アレハ之ニ遵フベキ也。

第十五條 尋常高等小學校ハ高等小學校ニ尋常小學校ノ教科ヲ併セ置キタルモノト見ルベカラズ。尋常小學校ニ高等小學校ノ教科ヲ併セ置キタルモノト見ルベキナリ。故ニ之ヲ併置セントスルトキハ、恰モ高等小學校ヲ設置スルト全様ノ規定ニ遵フヲ要ス。第三條ヲ參看スベシ。

第十六條

私立小學校ノ設置ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ其ノ廢止ハ之ヲ府縣知事ニ届出ツヘシ

第二條ノ釋義ヲ參看セヨ。

私立小學校ハ私立學校令ノ規定ニ遵フベキハ勿論、其レ

ニ對シテ特別法タル本令ノ規定ニモ依ルベキ也、蓋シ小學校ハ其性質他ノ學校ヨリモ多ク國ノ干涉ヲ要スベキモノタルコト明カナレハナリ

第十七條

前三條ノ規定ハ幼稚園、盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ニ關シ之ヲ準用ス

幼稚園、盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ハ之ヲ小學校ニ附設スルコトヲ得

- 幼稚園盲啞學校、其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ設置及廢止ニツキテハ府縣知事ニ對シテ左ノ如シ。
- (一)市町村立ノモノ(高等小學校ノ例ヲ準用) (設置認可ヲ受ク廢止全)
- (二)私立ノモノ(私立小學校ノ例ヲ準用) (設置認可廢止届出)

舊令ニテハ此種ノ學校ヲ小學校ニ附設スルコトヲ認メ
サリシカ、本令ニテハ之ヲ認メタリ。

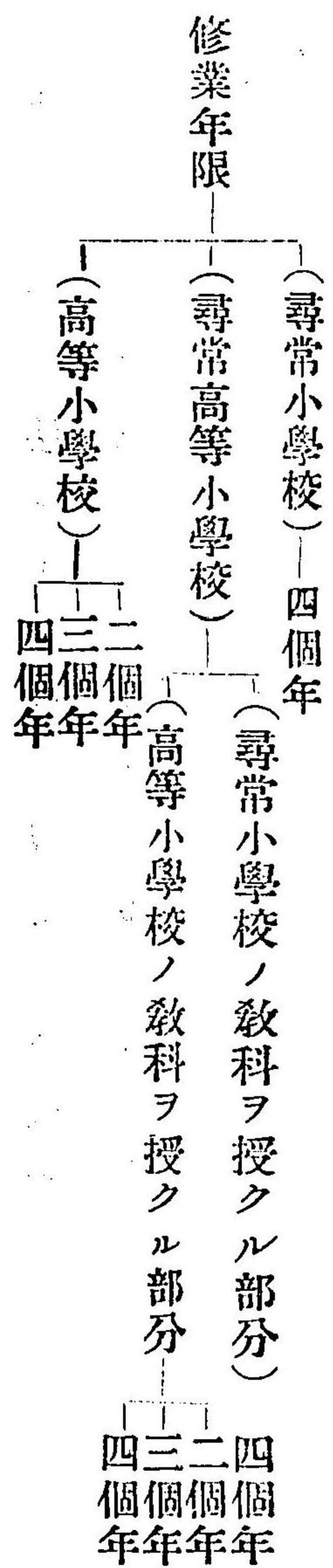
第三章 教科及編制

第十八條

尋常小學校ノ修業年限ハ四箇年トシ高等小學校ノ修業年限ハ二箇年、三箇年
又ハ四箇年トス

訓令第十号修業年限ニ關シテ説明スル所ヲ參看ス可シ
扱之ヲ圖解セバ、

從前尋常小學校ノ修業年限ニテハ、尋常小學校ノ修業年限ハ四箇年トシ、高等小學校ノ修業年限ハ二箇年、三箇年トシ、又ハ四箇年トス。



前ト異ナルコトヲ參看セヨ

高等小學校ノ修業年限ヲ定ムル手續ニ關シテハ、第二十
三條第二項及施行規則第七章第百八十三條九号ヲ參看
スヘシ尋常高等小學校ノ高等科ノ修業年限ニツキテモ
亦全シ。

第十九條

尋常小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、體操トス
土地ノ情況ニ依リ圖畫、唱歌、手工ノ一科目又ハ數科目ヲ加ヘ女兒ノ爲ニハ裁
縫ヲ加フルコトヲ得
前項ニ依リ加フル教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第二十條

高等小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、日本歴史、地理、理科、圖畫、唱歌、體操トシ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ

修業年限二箇年ノ高等小學校ニ於テハ理科、唱歌ノ一科目若ハ二科目ヲ闕キ又ハ手工ヲ加フルコトヲ得

修業年限三箇年以上ノ高等小學校ニ於テハ唱歌ヲ闕キ又ハ農業、商業、手工ノ一科目若ハ數科目ヲ加フルコトヲ得

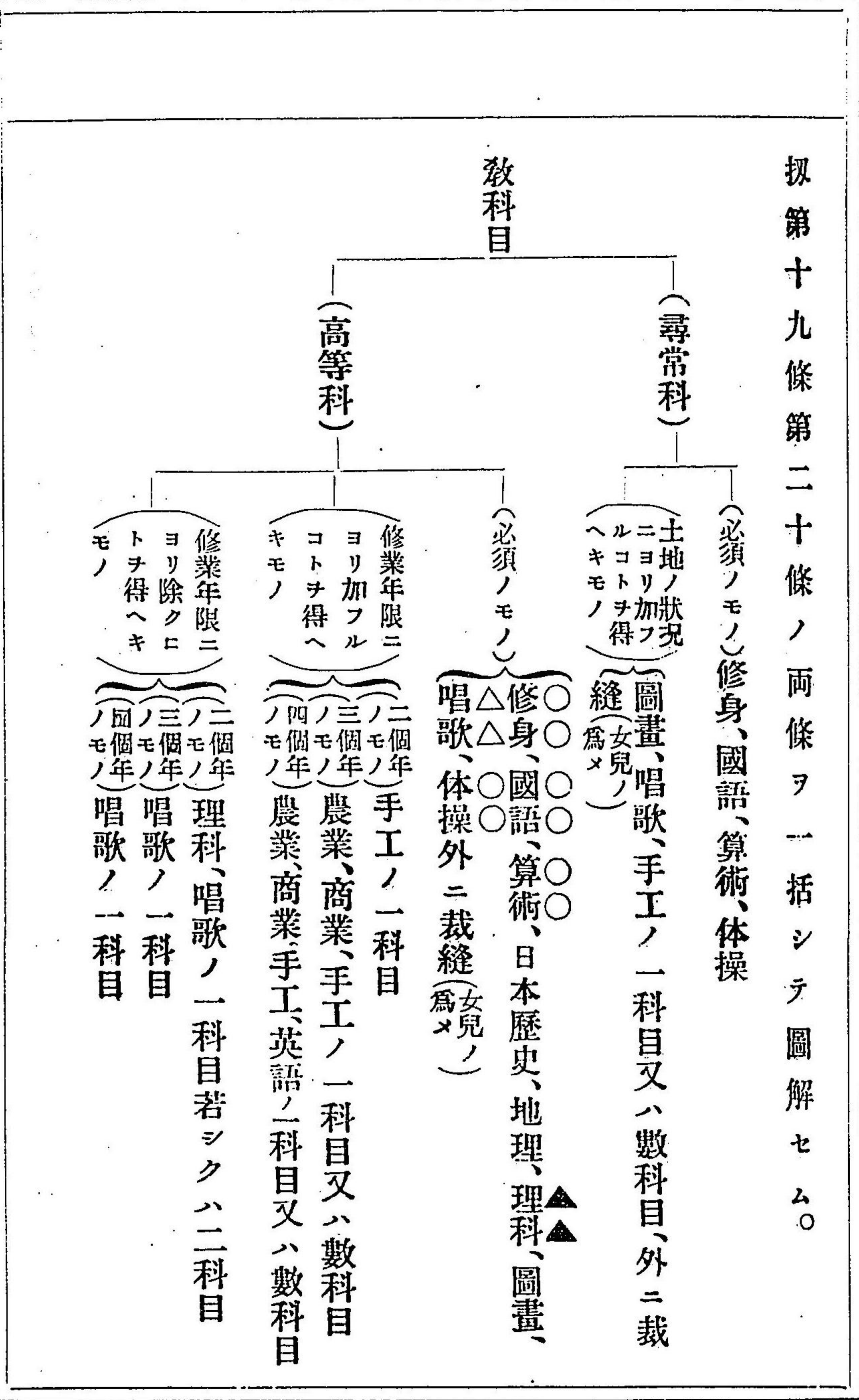
修業年限四箇年ノ高等小學校ニ於テハ英語ヲ加フルコトヲ得

前三項ニ依リ加フル教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

訓令教科目ニ關シテ説明スル所、及教則(施行規則第一章第一節及第一号至第七号表)ヲ參看スヘシ。

...

扱第十九條第二十條ノ兩條ヲ一括シテ圖解セム。



圖表中尋常科トアルハ尋常小學校及尋常高等小學校ノ尋常小學校ノ教科ヲ授クル部分ヲ指ス略語トシテ本書ニ於テ用フルノミ、法令ノ成語ニハアラス、高等科トアルモ之ニ準シテ知ルヘシ、舊令ニアリテ本令ニナキ教科目ハ幾何ノ初步、又舊令ニテハ外國語トアリタルヲ本令ニテハ英語ト限リタリ、殊ニ讀書作文習字トイフ名稱ヲ廢シテ國語トナセラル如キハ大ナル革進ナリ、尙第七十條ヲ參看スヘシ。表中必須科目中字傍ニ○符アルハ尋常科ニモアル教科目、又△符アルハ除クコトヲ得ヘキ教科目▲符アルハ修業年限二個年ノモノノミ除クコトヲ得ヘキ教科目、故ニ嚴密ニ云フトキハ高等科ノ必須科目ハ○符ノ

四科及ヒ日本歴史、地理、圖畫、体操、裁縫(女兒ニ限ル)ナリ、因ニ言フ舊令ノ日本地理、外國地理ヲ地理トナシタルモノト認メラル。修業年限二個年ノ學校ニテ理科ヲ缺クコトヲ得ル理由ハ訓令中ニ説明セラレタル如ク尋常小學校トノ連絡ニ便セムカ爲メナリ。手工ハ修業年限ノ長短ニ拘ハラズ何レノ高等科ニテモ加ヘ得ヘケレトモ、農業、商業ヲ加ヘ得ヘキハ三個年以上ノモノニ限ル、殊ニ英語ヲ加ヘ得ヘキヲ四個年ノモノノミニ限リタルハ實ニ當ヲ得タルモノト信スルナリ。加ヘ得ヘキ教科目ハ何レモ隨意科目ト爲スコトヲ得、

隨意科目トハ兒童ノ希望ニヨリテ課スヘキ教科目ナ
リトス。

教科目ヲ加除スルコト、隨意科目ヲ設クルコトニツキ
テハ、第二十三條第一項ニ依ルヘシ。尙施行規則第百八
十三條第八号ヲ參看スヘシ。

第二十一條

小學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得

補習科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

尋常小學校ニテモ、高等小學校ニテモ、尋常高等小學校ニ
テモ、補習科ヲ置クコトヲ得ル也。

補習科ノ旨趣等ニツキテハ、文部大臣ノ訓令中補習科ニ
關スル部ヲ參看スヘシ。

舊令ニ
テハ專
修科ヲ
認メテ
レタレ
トモ、
本令ニ
テハ之
ヲ認メ
ズ、但
其在
モ、セ
ルニ
ハ、第
七條
第十
規定
アリ

補習科ノ規程ハ施行規則第一章第四節ニ在リ。
其設置ノ手續キ等ニツキテハ第二十三條第一項及ヒ施
行規則第百八十三條十号ヲ參看スヘシ。

第二十二條

小學校ノ教科目中兒童身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル教科目ハ之ヲ
其ノ兒童ニ課セサルコトヲ得

舊令ニテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リタルガ唱歌体操
等ハ其學校長ニ於テ兒童ノ身體該教科目ヲ學習シ能ハ
スト認ムルトキハ之ヲ課セサルコトヲ得タリ。本令ニテ
ハ別ニ大臣カ定ムヘキ規定モナケレハ、本條其儘學校長
ノ認ムル所ニ依ルヘキカ。尤モ文部大臣又ハ府縣知事ハ
必要ニ依リ規定ヲ設ケラルヘキコトモアルベシ

第二十三條

小學校ノ教科目ヲ加除シ又ハ隨意科目ト爲サムトスルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ管理者、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

補習科ヲ設置シ若ハ之ヲ廢止シ又ハ高等小學校ノ修業年限ヲ定ムトスルモハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村若ハ町村學校組合、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

イ) 教科目ヲ加除スルコト(第二十條)ノ隨意科ヲ設クル事(第二十一條)ハ補習科ヲ設置若クハ廢止スル事(第二十一條)ニ高等小學校ノ修業年限ヲ定ムル事(第十八條)ニツキテハ、凡ベテ府縣知事ノ認可ヲ受ケサルヘカラス。而シテ私立小學校ニアリテハ凡ベテ其設立者ニ於テ之ヲ爲ス

舊令附帶ノ省令ニテ

ハ(イ)ノ場
ニ(ロ)ノ場
ノ(ハ)ニ
ハ市町村
ニ(イ)ノ場
ハ(ロ)ノ場
ハ(ハ)ニ
ハ(ニ)ノ場
ハ(ハ)ニ
ハ(ニ)ノ場
ハ(ハ)ニ

ベシト雖モ、市町村小學校ニ在リテハ之ニ異ナリ。(イ)ノ場合ニテハ其管理者(第六十條)ヲ参照(ハ)ニ(ニ)ノ場合ニテハ其市町村若クハ町村學校組合ニ合テ之ヲ爲スベシ。扱其區別ハ大切ナル事ニテ其理由等ハ之ヲ詳述セザルヲ得ズ。市制町村制ヲ按スルニ、市町村ナルモノハ固有ノ公共事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ、自ラ之ヲ處理スヘキノミナラス、又國ノ委任事務ヲモ處理セサルヘカラス。小學校教育事務ノ如キハ、國政事務ト認メラレ居ルモノナレハ、(小學校令)ハ此原則ノ上ニ成立ス(國ノ委任ナケレハ市町村ハ小學校ヲ設置スルヲ得ス。又其委任ハ無制限的ノモノニアラスシテ制限的ノモノナリ。市町村ハ委任セラレタル範圍内ニ於テノ國政事務ヲ固有ノ公共事務ト全樣ニ處

理スヘキモノナレハ、小學教育ニ關スル事務ハ、小學校令及其他關係アル法律勅令ノ條規ニ則トリテ之ヲ處理セサルヘカラス。

費用ノ負擔者ニ對シテハ、從テ相當ノ權義ヲ認ムルヲ要ス。小學校令ニ於テ市町村ヲシテ小學校設置ニ關スル費用ヲ負擔セシメタルハ、之ニ關シテ權義ヲ認メタリ。左レバ校數並ニ其位置ニ關シテハ、其意見ヲ聞カサルヘカラス。又修業年限ヲ定ムルカ如キ、補習科ヲ設クル如キ、亦其費用ノ負擔ニ關スルモノナレハ、市町村ヲシテ之ヲ定メシム。然レトモ市町村ノ任意ニ委シ去ルニハアラサル也。國ハ其ノ意見ヲ以テ決定ヲ與フルナリ。

市町村

市町村會ハ、市町村ヲ代表シテ市ニ關スル(固有ト委任ト

會ニ於テ議決セラルコトヲ執行スルハ、市參事會、町村長ナリ

ヲ問ハス)事件ヲ議決スルモノナルカ故ニ、本條(は)(に)ノ場合、即チ市町村ニ於テイフトキハ、市町村會ノ議決ヲ經テ市參事會町村長之ヲ行フナリ。

國政事務ヲ市町村又ハ其吏員ヘ委任スルニハ、其事務ノ性質ニヨリテ其方法三様アリ次ノ如シ

一、市町村ナル自治体ニ委任スルコト。

此場合ニ於テハ、市町村會ノ議決ニヨリテ之ヲ行フベシ。

二、市參事會、町村長ニ委任スルコト、

此場合ニハ、市參事會、町村長ニ於テ市町村ノ固有行政事務ヲ擔任スル如ク、委任事務ヲ擔任スヘキ也。但シ市町村會ノ議決ノ限リニアラス(或ル事項ヲ處理スル場

合多シ)

三、市町村長ニ委任スルコト。

此ノ場合ニハ市町村長、ガ國家官吏ノ性質ヲ帶ヒテ國ノ指揮ヲ受ケテ之ヲ爲ス。(國ノ行政ニシテ其市町村ニ屬スル事務ヲ管掌スル場合多シ)

舊令ニテハ、三様ノ方法ノスベテヲ採用シタレド、本令ニテハ第二ノ方法ヲ採用セス。

今新令舊令ヲ對照スルコト左ノ如シ。(左表以外ニモアレトモ、今之ヲ略ス)

事項	舊令	新令
(一) 小學校ノ設置等ニ關スル費用ノ負擔	市町村、町村學校組合	市町村、町村學校組合

(二) 尋常小學校ノ校數並位置ニツキテノ意見

ヲ申立ツル事

(三) 修業年限ヲ定ムル事 全上 全上

(四) 補習科ヲ設置廢止スル事 全上 全上

(五) 教科目ヲ加除スル事 市參事會、町村長 (管理者)

(六) 隨意科目ヲ設クル事 全上 (全上)

(七) 就學ヲ督促スル事、免除スル事、猶豫スル事等 市町村長 市町村長

(八) 市町村ニ屬スル國ノ教育事務ヲ管掌スル事 市町村長 市町村長

(九) 市町村立小學校ヲ管理スル事 全上 町村學校組合長

全上

(二) 市町村小學校長ノ管理ニ屬 全上

ナシ

第二十四條

小學校ノ教科用圖書ハ文部省ニ於テ編纂シタルモノ及文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ小學校圖書審査委員會ノ審査ヲ經テ府縣知事之ヲ採定ス

補習科ノ教科用圖書ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

訓令中
教科用
圖書審
査ニ關
スル部
分ヲ參
照スヘ
シ
教科用
圖書檢
査規則
以此令
命テ令
テ

小學校ニ於テ用フヘキ圖書ハ、文部省ニ於テ編纂シタルモノカ、文部大臣ノ檢定シタルモノナラサルヘカラス。而シテ之ヲ採定スルハ、府縣知事ノ職權ニシテ、シカモ小學校圖書審査委員會ノ審査ヲ經ルヲ要ス。之ヲ原則トス。補習科ノ教科用書ニツキテハ、此原則ヲ採用セス、之ヲ文部大臣ノ定ムル所ニ委シタリ。施行規則第一章第四節第

即チ明
治二十
五年十
月
文部省
令第二
號
也

四十四條ニテ補習科ノ教科用圖書ハ學校長ノ選定ニ委ネタリ。但シ府縣知事ノ認可ヲ受クルハ勿論トス。府縣知事ノ採定シタル圖書ト雖モ其檢定ノ効力ヲ失ヒタルトキハ其採定モ亦無効トナルハ論ヲ待タズ

圖書審査及採定ニ關シテハ、施行規則第一章第五節ニ規定アリ。參看ヲ要ス。

小學校教科用書ハ兒童用、教員用、教授用ノ三種トセラレ

左ノ告示ヲ參看セヨ。

文部省告示第百八十二號(明治三十三年八月廿五日)
一 小學校教科用圖書ハ兒童用教員用教授用ノ三種トシ之ヲ檢定ス
一 兒童用圖書ハ兒童ノ學習スヘキ事項ヲ記載シ兒童各自ニ使用セシムルモノトス

一 教員用圖書ハ教授スヘキ事項教授上ノ注意及應用ニ關スル事項ヲ記載シ適宜教授ノ目的順序方法ヲ説明シ又教科目ノ種類ニ依リ實物標本圖書器械等ノ使用ニ關スル注意ヲ附說シ教授上教員ノ準據スヘキモノトス

教授上直接應用ナキ事項ヲ採録セルモノハ教員用圖書トシテ檢定セス

一 教授用圖書ハ教授ノ際兒童ニ示スヘキ掛圖類トス

一 明治二十五年文部省告示第九號ハ之ヲ廢止ス

第二十五條

府縣知事ノ採定シタル教科用圖書ニシテ其ノ一部ヲ修正シ文部大臣ノ檢定ヲ受ケタルモノハ更ニ審査委員會ノ審査ヲ經ス府縣知事ニ於テ仍採定ノ效力ヲ繼續スルコトヲ得

從前ハ此規定ナカリシヲ以テ、修正ヲ加ヘタル圖書ハ更ニ檢定ヲ經タルモノニテモ、一旦採定ノ効ヲ失フガ故ニ

明治三十三年五月令第三十號

繼續シテ使用スルヲ得ズ。是ヲ以テ採定後、數年ヲ經ルトキハ時運ノ進歩ニ伴ハサル教科用圖書ヲ教場ニ於テ見ルコト珍シカラサリキ。コハ實ニ教育上少カラサル障害ナレハ、曩キニ省令ヲ以テ本令ノ如キ規定ヲ設ケラレタルヲ、今回本令中ニ規定セラレ、尙其手續キヲ簡易ニセラレタルナリ。洵ニ適當ノ規定ト謂フベシ。

第二十六條

小學校圖書審査委員會ハ府縣ニ置キ左ニ掲クル者ヲ以テ之ヲ組織ス

- 一 府縣書記官
- 二 府縣視學官
- 三 專任府縣視學
- 四 師範學校長

五 師範學校教諭二名

六 府縣立中學校長一名

七 府縣立高等女學校長一名

八 郡視學二名

小學校圖書審查委員會及審查ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

施行規則第一章第五節(圖書審查及採定)並ニ訓令中圖書

審查ニ關スル部ヲ參看セヨ

第二十七條

小學校ノ休業日ハ日曜日ヲ除クノ外毎年九十日ヲ超ユルコトヲ得ス但シ補習科ハ此ノ限ニ在ラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ日數ヲ増加スルコトヲ得

傳染病豫防ノ爲必要アルトキ其ノ他非常變災アルトキハ監督官廳ニ於テ臨時小學校ノ閉鎖ヲ命スヘシ其ノ急迫ノ事情アル場合ニ於テハ市町村立小學校ニ在リテハ管理者、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ之ヲ閉鎖スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ監督官廳ニ届出ツヘシ

第一項第二項ハ休業日ニ關スル規定ニシテ、施行規則第一章第二節(學年、休業日及式日)ヲ參看スルヲ要ス。

第三項ハ小學校閉鎖ノ場合ヲ規定ス

(い) 傳染病豫防ノ爲メ必要アルトキ
(ろ) (い)ノ外非常變災アルトキ

(監督官廳ニ於テ臨時閉鎖ヲ命ス) 急迫ノ事情アル場合

(市町村立) 小學校ハ管理者
(私立學校) ハ設立者

ニ於テ之ヲ閉鎖スルヲ得、但シ直ニ監督官廳ニ届出ツルコト

監督官廳トハ市ニツキテハ、府縣知事町村ニツキテハ
郡長ヲ指ス。

又私立學校ノ監督官廳ハ本令第六十六條ノ規定ニ依
リテ、之ヲ知ルヘシ。之ヲ要スルニ小學校ニアリテハ公
私立トモ監督官廳ヲ全シクス。

第二十八條

小學校教則及小學校編制ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

施行規則第一章第一節及第三節ヲ見ルヘシ。又訓令中教
科目等ニ關スル部ヲ參看ス可シ。

第四章 設備

第二十九條

小學校ニ於テハ校舍校地校具及體操場ヲ備フヘシ

小學校ハ物ト人トヲ要スル營造物ナレハ、物ニツキテハ
相當ノ設備ナカルヘカラス。本令ニ於テ設備トハ校舍、校
地、校具及體操場ヲ指ス。校舍トハ教育スル場合ニ使用ス
ヘキ建物ヲイヒ、校地トハ本條ニテハ其建物ノ敷地ト解
ス可ク、校具トハ直接ト間接トヲ問ハズ教授上ニ必要ナ
ル器械器具等ヲ指ス。机腰掛ノ如キハ間接的ノモノニシ
テ掛圖、標本類ハ直接的ノモノナリ。通常前者ヲ器具トシ
後者ヲ器械ト唱ヘ來レリ。然レトモ嚴確ニ區別シ得ベキ
ニアラス。體操場ニハ單ニ土地ノミノモノアリ。建物ヲ要
スルモノアリトス。詳シキハ設備規則ヲ見ルベシ。設備ハ、
設備規則ノ規定スル所ニ基キ之ヲ供給セサルヘカラス。

第三十條

校舍、校地、校具及體操場ハ非常變災ノ場合ヲ除クノ外小學校ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ己ムヲ得サル事情ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

小學校ノ設備ハ、固ヨリ小學校ノ目的ノ爲メニ使用スベキコト論ナキコトナリ。然レトモ非常變災ノ場合ニ當リテハ、例エハ避難場ニ充ツル如ク臨機之ヲ使用スルコトヲ妨ケサレトモ、其他ノ場合ニ於テハ小學校ノ目的以外ニ使用スルヲ得サルヲ原則トス。若シ止ムヲ得サル事情ニ依リ使用セムトスルトキハ、監督官廳ノ認可ヲ受クヘキモノトス。右ハ公立タルト私立タルトヲ問ハサルナリ。市町村ハ、其ノ所有財産ニツキテハ市町村制ノ定ムル所ニヨリテ自ラ之ヲ使用スルコトモ、他人ヲシテ使用セシ

ムルコトモ任意ナレトモ、小學校ノ校地校舍等ハ其市町村ノ所有ナルニモ拘ハラズ、任意ニ使用スルコトモ使用セシムルコトモ出來サルハ、固市町村立小學校ハ國ノ營造物ナルガ故ナリトス。又私立小學校ニ於ケルモ、其小學校ハ私人ノ設置ニ係レトモ、其ノ小學校ノ事業タル市町村立小學校ト異ナラスシテ、國ノ定メタル小學教育ヲ行フニ在リ。サレバ、孰レモ此ノ事ニ關シテ國ノ認可ヲ受ケシム。是レ他ノ目的ノ爲メニ使用スルトキハ、或ハ本來設備シタル目的ヲ害スルコトナキニシモアラサルヲ以テナリ。

第三十一條

小學校ノ設備ニ關スル規程ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ

定ム

小學校ノ設備ハ、小學校ナル營造物ヲ組成スル一ノ要素ナレハ固ヨリ國ノ定ムル所ニ從フヘキナレトモ、設備ノ事タル費用ニ關スルコト頗ル大ナレバ、地方經濟ノ情況ヲ參酌スル所ナカルヘカラス。又風土民習ニ適スルヲ要ス。依テ本條ノ規定アリ。從前ハ國ノ注文スル範圍ヲ狹少ニシ、殆ンド地方ノ情況ニ委スル方針ナリシヲ以テ、其準則タルヤ數條ニ過ギス、頗ル簡單ナルモノナリキ。然レトモ設備ノ事タル小學校ノ本旨ノ一タル兒童身體ノ保護發達ニ關スルモノ尠少ニアラス。其ノ他教育上ニ關係スル所重大ナルカ故ニ、地方經濟ノ情況昔日ノ比ニアラサル今日、設備上大ニ改善ヲ遂ケシムル方針ヲ以テ明治三

舊令第十條
 兒童十歲
 六歲滿
 四歲滿
 至八歲

十二年七月省令第三十七號ヲ以テ準則ヲ改正セラレタルヲ、今又小學校令ノ改正ニ伴ヒ、施行規則第二章ニ規定セラル、所アリト雖モ、右ノ改正準則ヲ多少修正セシニ止マレリ。

本令ニ謂フ準則ハ規則ニアラス、府縣知事カ規則ヲ定ムベキ準繩ヲ示シタルニ過キス。即チ訓令タル性質ノモノナリトス。從テ此準則其ノモノハ直ニ遵由ノ効力ヲ生セズ

第五章 就學

第三十二條

兒童滿六歲ニ達シタル翌月ヨリ滿十四歲ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス
 學齡兒童ノ學齡ニ達シタル月以後ニ於ケル最初ノ學年ノ始ヲ以テ就學ノ始期

個以年トテ學ナ
齡トテ學ナ
保兒ハモス
ノハキモス
學齡ハ其
畫ヲ尋常
テ尋常校
小テ尋常
サハ卒科
ハ就學間
セシムル
ルシムル
務ルシム
スルシム
前項ハ
義務ニ
學齡
達シタ
ルニ
始メ
ルモ
リ

トシ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルトキヲ以テ就學ノ終期トス
學齡兒童保護者ハ就學ノ始期ヨリ其ノ終期ニ至ル迄學齡兒童ヲ就學セシムル
ノ義務ヲ負フ

學齡兒童保護者ト稱スルハ學齡兒童ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ親權ヲ行フ者ナ
キトキハ其ノ後見人ヲ謂フ

第一項ニ於テハ學齡ノ期間ヲ示ス。舊令ニテハ滿六歳ヨ
リ滿十四歳ニ至ル云々トアリシカ、其解釋ハ本令ノ明文
ニアル如ク、六歳一ヶ月ヨリ滿十四歳、即十三年十二月
ニ至ル八ヶ年ヲ以テ學齡トハナシ來リシナリ。今日ニテ
ハ學齡ノ定義ヲ變シテ用フルカ或ハ學齡トイフ語ヲ廢
スルコト却テ理ニ適ヒ且便利ナリト信スレトモ、學制頒
布ノ時ヨリ慣用シ來リシ文字トテ、此新令ニモ襲用セシ

トテ學ナ
齡トテ學ナ
保兒ハモス
ノハキモス
學齡ハ其
畫ヲ尋常
テ尋常校
小テ尋常
サハ卒科
ハ就學間
セシムル
ルシムル
務ルシム
スルシム
前項ハ
義務ニ
學齡
達シタ
ルニ
始メ
ルモ
リ

ナラム。

スベテ學齡ニハ數ヶ年ノ七歳トナル年ノ生レ月ヨリ入
リ、數ヶ年十五歳ノ年ノ生レ月ノ前月ニテ終ル。

第二項ニ於テハ、學齡兒童ノ就學スベキ期間ヲ規定シタ
ルナリ。現制ニテハ學齡兒童ハ學齡兒童タル間就學スヘ
キモノニアラス。依テ本項ノ規定ヲ設ケタリ。舊令ニテモ
文字ハ異ナリシカ、事實ハ之ト全ク同シ規定アリシナリ。
即其ノ第二項第三項ヲ参照セヨ。

本項ニツキテハ、例ヲ舉ケテ詳解スベシ。
學年ノ初メトハ、施行規則第一章第二節第二十五條ニ規
定セル如ク四月ナリ。故ニ其年四月前ニ既ニ學齡六歳一
ヶ月ニ達シ居ル兒童ハ勿論、其ノ四月ニ學齡(六歳一ヶ月)

ニ達スル兒童ハ、其四月ヲ以テ就學ノ始期トス。而シテ其
 他ハ翌年四月ヲ以テ就學ノ始期トスルナリ。例エハ、本年
 五月ニ學齡ニ達スル兒童ハ、本年ノ學年ノ始(四月)ニハ未
 ダ學齡ニ達セズ。故ニ其學齡ニ達シタル月即五月以後ノ
 第一ニ來ルベキ學年ノ始、即チ來年ノ四月ヲ以テ就學ノ
 始期トハナスナリ。
 尙左表ヲ見ルヘシ。

兒童生 月ノ區別	學齡ニ達 スル年月	就學ノ始 期	學齡ヲ終 ル年月
一月生ノ者	第七年目ノ一月	第十四年目ノ十二月	第十五一年目ノ一月
二月生ノ者	上ノ二月	其ノ年四月	第十五一年目ノ一月
三月生ノ者	上ノ三月	全	上ノ二月
四月生ノ者	上ノ四月	全	上ノ三月

五月生ノ者	上ノ五月	全	上ノ四月
六月生ノ者	上ノ六月	全	上ノ五月
七月生ノ者	上ノ七月	全	上ノ六月
八月生ノ者	上ノ八月	全	上ノ七月
九月生ノ者	上ノ九月	全	上ノ八月
十月生ノ者	上ノ十月	全	上ノ九月
十一月生ノ者	上ノ十一月	全	上ノ十月
十二月生ノ者	上ノ十二月	全	上ノ十一月

(備考)學齡ニ達スル全、前表ノ月ノ一日ニシテ、學齡ヲ終
 ルハ、前表ノ月ノ末日ナリト解釋ス可シ。

之ヲ要スルニ一月ヨリ四月マテニ生レタル者ハ、第七年
 目ノ四月一日ヲ、四月ヨリ十二月迄ニ生レタル者ハ、第八
 年目ノ五月一日ヲ就學ノ始期トスルナリ。
 就學ノ終期ハ豫メ某年月ト指ス事ヲ得ス。何トナレハ尋
 常小學校ノ教科ヲ終了スヘキ時期未定ナレハナリ。然レ

トモ就學猶豫等ノ事故ナキモノハ、通例就學ノ始期ヨリ滿四年後ヲ就學ノ終期トス。第三項ハ、義務教育ヲ遂行スヘキ重要ノ規定ナリ。故ニ此義務ヲ怠リタルモノニ對シテハ、制裁ヲ與フルノ要アルハ論ナキナリ。然レトモ現今ノ國情ニ於テ、司法處分ニ付スヘキ制裁ヲ設クルハ、或ハ便ナラサルモノナキニアラス。是レ草案ニ於テハ制裁ヲ設ケタリトノ說、喧傳セシニモ拘ハラヌ、其ノ發表セラルノニ及ヒテハ何等是等ノ規定ナカリシ所以ナラム。而シテ司法的制裁ノ規定ハナキニモセヨ。行政上ノ制裁ヲ爲シ能ハサルニアラス。後文之ヲ評論セム。

本項ハ之ヲ平易ニ言明スレハ、『學齡兒童保護者ハ學齡兒童ノ就學ノ始期ヨリ尋常小學校ノ教科ヲ終了スル迄

就學セシメサルヘカラス』トノ意ナリ。

就學ノ終期ニ達セサルニ先チ、既ニ學齡ヲ終リタル兒童ニツキテハ、其保護者ハ之ヲ就學セシムルノ義務ナキモノトス。何トナレハ、既ニ學齡ヲ終リタル兒童ハ學齡兒童ニアラサルヲ以テ、本條第三項規定ノ範圍外ナレハナリ。

第四項ハ、學齡兒童保護者ノ誰タルカヲ指定ス。舊令ニテハ民法施行前ノコト、テ、保護者タル要件ニツキテハ特ニ其ノ規定ヲ設ケタレトモ本令ニ於テハ民法ノ規定ヲ利用シ、本文ノ如ク定メラレタルナリ。

親權トハ如何、又親權ヲ行フ者トハ如何、及ヒ後見人ハ如何曰ク左ニ抄録セル民法ノ成條ヲ見ル可シ

民法第四第五章中、

家ニ在ルハ
全一戸
籍内トナ
ルコトナ
ルイフ

第八百七十七條 子ハ其家ニ在ル父ノ親權ニ服ス、但
獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ此限ニ在ラス。
父カ知レサルトキ、死去シタルトキ、家ヲ去リタルト
キ、又ハ親權ヲ行フコト能ハサルトキハ、家ニ在ル母
之ヲ行フ。

民法
所定ノ
親權ヲ
行フ者
ノ

第八百七十九條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ、未成年ノ子
監護及ヒ教育ヲ爲ス。權利ヲ有シ義務ヲ負フ。

對ハノ
私法上
ノ義務
ニ對シ
テ

第八百八十四條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ、未成年ノ子
ノ財産ヲ管理シ又其財産ニ關スル、法律行爲ニ付キ
其子ヲ代表ス。(但書畧ス)

上ノ
公法上
ノ

第九百條 後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス。
一、未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親

小學校
ノ規程

定ハ公
法上ノ
モテニ
シテ
國ニ對
スル義
務ヲ
履行ス
ルニ
別チ明
カニ示
スヘシ
民去第
四編第
五章第
三十二
條ニ參
照ス

權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルトキ。
尙ホ繼父母等ノ親權ヲ行フ場合等ニツキテハ直接コ
、ニ必要ナキヲ以テ其抄録ヲ爲サス。

親權喪失ノ場合ハ、第八百九十六條ニ規定ス。即チ父又
ハ母カ親權ヲ濫用シ、又ハ著シキ不行跡ナルトキニシ
テ、此ノ場合ニハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ固リ裁判
所親權ノ喪失ヲ宣告ス。

之ヲ要スルニ、兒童保護者ハ其家ニ在ル父(又ハ母)ナルヲ
常トス、後見人カ保護者トナルハ兒童ニ父母ナキ場合、及
ヒ父母共ニ親權喪失ノ場合ニ限ル。蓋シ後見人ハ父母ア
ルトキニテモ、父母カ管理權ヲ有セサルトキハ設ケラル。
而シテ此場合ニ於テハ父母ハ尙子ニ對スル教育ヲ爲ス

權利義務ハ行フコトヲ得ルカ故ニ、教育ヲ爲スベキ公法上ノ義務ハ尙之ヲ負ハシメラレタルナリ。親權ヲ行フ者ノ下ニ又ハ『後見人』ト云ハスシテ、『又ハ親權ヲ行フ者ナキトキハ後見人』トアルニ注意ス可シ。

後見人カ本令ノ義務ヲ行フニ當リ、費用ヲ要スルトキハ、例エハ授業料ヲ納ムルニハ、兒童ノ財産中ヨリ之ヲ支辨スルコトヲ得ヘキハ勿論ナレトモ、兒童ニ財産ナキヲ理由トシテ、本令ノ義務ヲ行ハサルコトヲ許サス。然レトモ後見人カ本令ノ義務ヲ行フ爲メニ費シタルモノニ付キテハ、民法ノ規定ニ因リ兒童ヨリ辨償ヲ受ケ得ラルベキナリ。

兒童保護者ニシテ本條ノ義務ヲ行ハサルモノアルトキ

明治三十三年三月十六日法律第四十八號

其ノ制裁如何ヲ論スルニ當リ、行政執行法ヲ抄録スルノ必要ヲ感ズ。

行政執行法

第五條 當該行政官廳ハ、法令又ハ法令ニ基ツキテ爲ス所分ニ依リ命シタル行爲、又ハ不行爲ヲ強制スル爲メ、左ノ所分ヲ爲スコトヲ得。

一、自ラ義務者ノ爲ス可キ行爲ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコト

二、強制スヘキ行爲ニシテ他人ノ爲スコト能ハサルモノナルトキ又ハ不行爲ヲ強制スヘキトキハ命令ノ規定ニ依リ二十五圓以下ノ過料ニ處スルコト

前項ノ處分ハ豫メ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但急迫ノ事情アル場合ニ於テ第一號ノ處分ヲ爲スハ此ノ限リニアラス

行政官廳ハ第一項ノ所分ニ依リ行爲又ハ不行爲ヲ強制スルコト能ハスト認ムルトキ又ハ急迫ノ事情アル場合ニ非レハ直接強制ヲ爲スコトヲ得ス

行政執行法施行令

第四條 行政執行法第五條ノ過科ハ所分ヲ爲ス行政官廳ノ區別ニ從ヒ左ノ金額ヲ超フルコトヲ得ス

一、各省大臣

二十五圓

二、廳府縣長官

十圓

三、其他ノ行政官廳

二圓

第五條 行政執行法第五條ノ、戒告ハ履行期間ヲ定メ且書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

本條規定ノ就學ニ關スル義務ヲ行フコトハ、事實他人ノ爲スコト能ハサルモノナリ、左レハ行政執行法第五條第一項第二號ヲ適用シ得ヘシト信ス。然レトモ此義務ヲ行ハサルモノニ行政執行法ヲ適用スルニハ、先ツ左ノ第一ノ手續キヲ充分ニ盡シタル上、始メテ第二ノ手段ニ依ルヲ穩當ナリトス。

第一、府縣知事ハ市内ニアルモノニツキテ、郡長ハ郡内ニアルモノニツキテ、當該保護者ニ對シ其兒童ノ就學又ハ出席ヲ督促スルコト。

第一手段
手續
學令
施行
規則
校令
規程
行規
ノ規
スル
トス

第二、前ノ手段ニ依リ尙其効ナキトキハ行政執行法施行令第五條ニ依リ履行期間ヲ定メ戒告ヲ爲スコト。

第三、第二ノ手段ニ依ルモ尙履行セサルトキハ行政執行法第五條ヲ適用シ過料ニ處スルコト。

第三十三條

學齡兒童瘋癲白痴又ハ不具廢疾ノ爲就學スルコト能ハスト認メタルトキハ市町村長ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ學齡兒童保護者ノ義務ヲ免除スルコトヲ得

學齡兒童病弱又ハ發育不完全ノ爲就學セシムヘキ時期ニ於テ就學スルコト能ハスト認メタルトキハ市町村長ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ其就學ヲ猶豫スルコトヲ得

市町村長ニ於テ學齡兒童保護者貧窮ノ爲其ノ兒童ヲ就學セシムルコト能ハスト認メタルトキ亦前二項ニ準ス

瘋癲、白痴、精神、狂者、白痴、俗稱、呆馬、稱鹿、者、力者、不具、四肢、不五、體、備、エ、コ、ノ、ハ、ト、シ、修、癩、ノ、疾、カ、治、ス、ル、サ、ヘ、カ、思、フ、キ、病、啞、失、例、チ、ル、ラ、ス、フ、キ、云、ノ、如、ク、云、キ、云、キ、

第一項ハ、第三十二條ノ取除ゲノ場合ヲ規定ス。瘋癲白痴又ハ不具廢疾ノ爲メ就學スルコト能ハサル兒童ナキニアラス。是等ノ兒童保護者ニ對シテ前條ノ義務ヲ免除スルコトヲ得ルナリ。

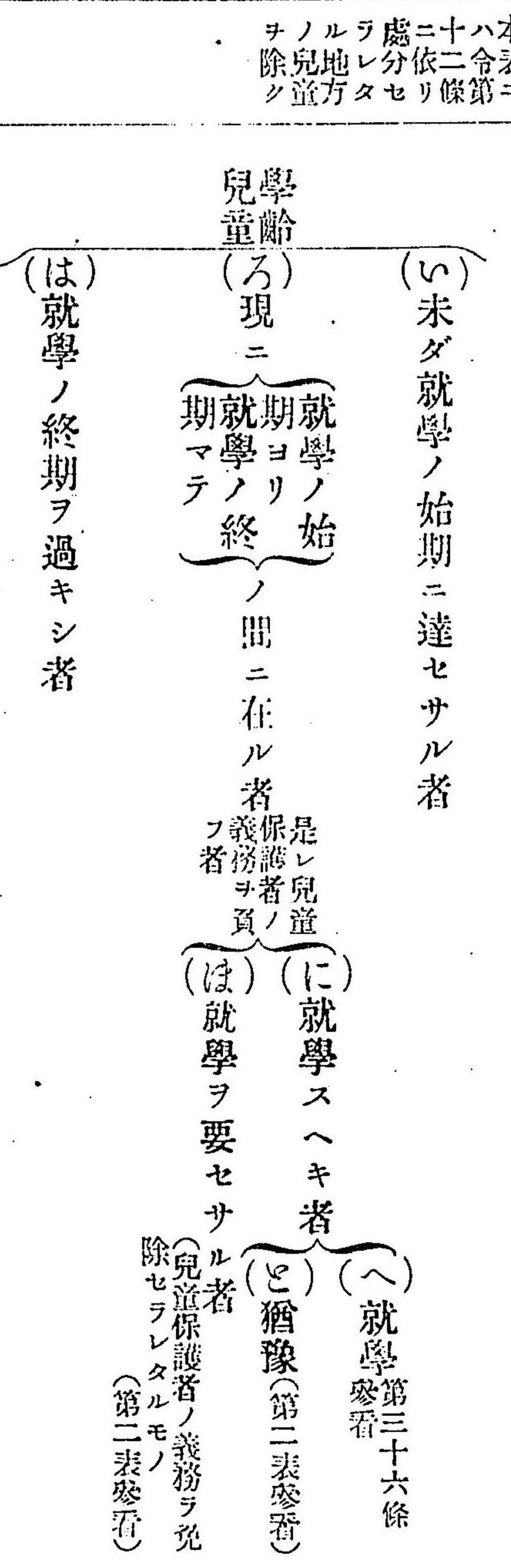
就學ニ關スル事務ハ、總テ市町村ヲシテ之ヲ管掌セシム。元來就學ニ關スル事務ハ、國ノ事務ナルカ故全ク之ヲ市町村長ニ一任セス、監督官廳即チ知事又ハ郡長ノ認可ヲ受ケシム。

第二項ハ、就學スヘキ時期ニ於テ就學ヲ爲サルコトヲ許ス規定ナリ、兒童病弱ニテアルカ。又ハ發育不完全ニテアルカ、是等ノ爲メ就學スヘキ時期ニ於テ就學スル能ハサル兒童ハ其就學ノ猶豫セラル、コトアルナリ。

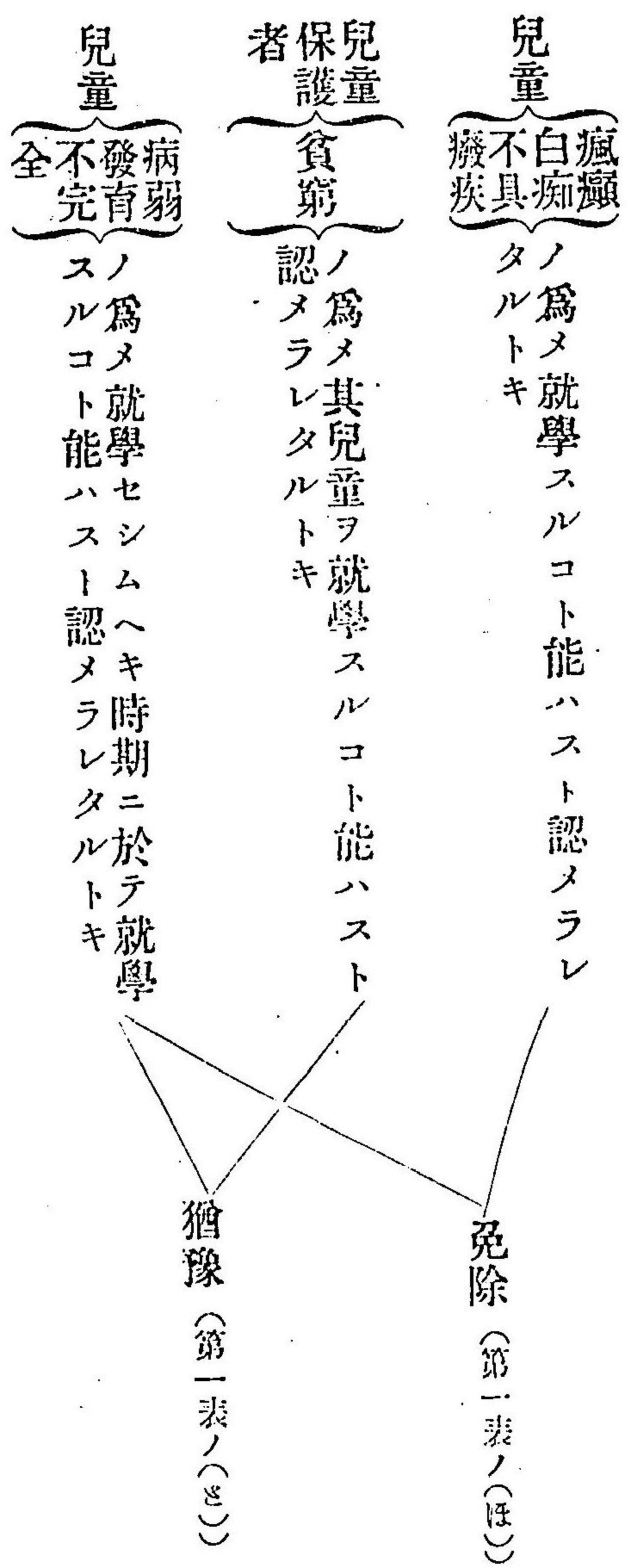
第三項、ハ學齡兒童保護者カ貧窮ノ爲メ、其ノ兒童ヲ就學セシムルコト能ハサル場合ニ於テ、義務免除又ハ就學猶豫ノ處分ヲ行ハル、コトヲ規定ス。

今前條及本條ヲ圖解セム。

第一表



第二表



兒童保護者ニシテ貧窮ナリトモ、兒童ノ富メル者モナキニアラネバ、唯保護者生計ノ程度ニ依リテノミ、處分ヲ爲スコト能ハサルコトニ注意ス可シ。此例ハ後見人カ保護

者タルトキニ起ルコトアリトス。
如何ナル程度迄ヲ猶豫トシ、免除トスルカノ區別ハ、實地
問題ナリ。局ニ當ル者、調査ヲ遂ケテ漫リニ義務ヲ免ルコ
トナカラシムコトヲ要ス。

第三十四條

第十二條ニ依リ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免
セラレタル區域内ノ學齡兒童保護者ハ其ノ義務ヲ免除セラレタルモノトス
本條ハ舊令ニハナカリキ。第十二條ノ規定ノ必要アル上
ハ、本條ノ規定ニ從テ之レナカルヘカラス。其義務ヲ免除
セラル、ハ、兒童カ其區域内ニアルガ爲メ也。保護者ノ居
住ノ地ニ關セサルモノトス。

第三十五條

訓令ニ
就學ニ
關スル
部ヲ參
看セヨ

尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭スル者ハ其ノ雇傭ニ依リテ兒
童ノ就學ヲ妨クルコトヲ得ス

本條ハ舊令ニ規定ナキモノナレトモ、舊令ニヨリ保護者
ト認ムヘキ要件中ニ雇主ヲ加ヘテ兒童保護者ト爲セル
地方モアリキ。扱本條ハ雇主ヲシテ就學ノ終期ヲ過キサ
ル兒童ニアラサレハ、之ヲ雇入ルコトヲ得サラシメタル
規定ニハアラス。サレハ雇主ハ簡易便宜ノ方法ニヨリ其
雇入レタル兒童ノ教育ヲナセハ可ナリ。第三十六條第一
項但書及施行規則第三章第八十六、七條ヲ參看ス可シ

第三十六條

學齡兒童保護者ハ就學セシムヘキ兒童ヲ市町村立尋常小學校又ハ之ニ代用ス
ル私立小學校ニ入學セシムヘシ但シ市町村長ノ認可ヲ受ケ家庭又ハ其ノ他ニ

於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシムルコトヲ得
 官立又ハ府縣立學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ハ兒童就學ニ關
 シテハ市町村立尋常小學校ト同視ス

本條ハ、就學ノ方法ヲ規定シタルナリ。即チ就學ハ左ノ如
 ク四種ノ方法ニ依リテ行ハル、ナリ。
 一、市町村立小學校ニ入學スルコト。
 二、代用私立小學校ニ入學スルコト。
 三、家庭ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムルコト。
 四、前三項以外ノ場所ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル
 コト。
 右第一號中ノ學校ニハ學習院、華族女學校、師範學校ノ附
 屬小學校ヲモ包含シ、第四號ニハ代用ニアラサル私立小

從前ノ規定ニ
 規テ未滿學
 齡モ未滿學
 ノ就學ノ
 センハ嚴
 ル禁ル
 ニハ禁ル
 ラレタ
 リ所ニ
 照シテ
 テ左ノ
 訓令ヲ
 掲グ
 文部省
 六號令
 明治二
 十八年
 八月九
 日
 學令
 滿月未
 滿月未
 學令
 就學
 シムル
 八學校
 管於上
 ニ於テ

學校、工場、若ハ雇主ノ店舗内等ニ於テ之ヲ修ムルコト等
 ヲ意味ス。而シテ第三四號ニツキテハ、市町村長ノ認可ヲ
 受クルヲ要ス。此兩號ニツキテハ施行規則第三章第八十
 六、七條ヲ參看ス可シ。

第三十七條

兒童ノ年齢就學ノ始期ニ達セサル者ハ之ヲ小學校ニ入學セシムルコトヲ得ス
 舊令ニハ本條ノ如キ規定ナシ。抑モ學齡ノ始期ハ何歳ニ
 定ムヘキカハ一大問題ニシテ、少クトモ一、身体ノ發達上。
 二、教育學上ノ要求。三、國民經濟上ノ三方面ヨリ之ヲ觀察
 シ研究スルヲ要ス。然レトモ、就學ハ早キニ失センヨリハ
 少シ位ハ後ル、方寧口利アリトス。故ニ本令ノ如ク、學齡
 ノ始期必スシモ就學ノ始期ト一致セサル規定ノ下ニア

不都合ナルノミナラズ、身ノ發育上ニ有害ナル者ヲ就學セシムルコトハ、兒童身ノ發育上ニ有害ナリトス。是レ本條ノ規定アル所以ナリトス。且又本條ノ規定ハ管理上、備設上、學級編制上ニ關シテ便利ヲ與フルモノナリ。

第三十八條

小學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨アリト認メタル兒童ノ小學校ニ出席スルヲ停止スルコトヲ得

一、傳染病ニ罹リタル者。

二、傳染病ニ罹ル虞アル者。(例エハ傳染病患者アル家ノ

重取縮ルヘシ
舊令第三十三條

兒童ノ如シ

三、性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨ケアリト認メタル者。

右第三ノモノニ對シテ之ヲ行フニ當リテハ、最モ慎重ニ考慮スルヲ要ス、詳言スレハ、其ノ兒童ヲシテ義務教育ヲ受クル能ハサラシムルト、將タ其ノ兒童ノ爲メニ、他ノ兒童ノ教育ニ妨ケアルトノ利害、孰レカ重キカニ付キテ慎重熱慮セサルヘカラス。

本條停止ノ期間ハ短キモアルヘク、又長キモアルヘク、其必要ノ度ニ應シテ定ムヘキナリ。其ノ傳染病ニ關シテ出席ヲ停止スルニハ、傳染病豫防ニ關シテ定メラレタルモノニ從ツテ處理スヘキコト勿論トス

第六章 職員

小學校ノ教員ノ遺族扶助ニ關スルニハ、國カ一定ノ資格ヲ定メ、其ノ待遇ヲ爲ス職員ニ付キテハ、國カ一定ノ資格ヲ定メ、其ノ待遇ヲ明カニシ、其ノ職務及服務并ニ進退ニツキテ規定ヲ設クルハ、當然ノ事タリトス。況ンヤ其職員タル他ノ職業ト異ニシテ、人ノ精神界ニ感化ヲ與ヘ、以テ國民タルヘキ性格ヲ作ルヘキ事業ニ從フモノナルニ於テヤ。是レ本章ノ規定アル所以ナリトス。今本章ヲ舊令ノ相當セル條章ト比較スルニ、大ニ異ナル点アルヲ見出スヘシ。舊令ニ於テハ小學校職員ヲ市町村吏員ノ性質ト國ノ職員ノ性質トヲ混有セルモノトシテ見タル立脚点ヨリ、其ノ待遇進

小學校ノ教員ノ遺族扶助ニ關スルニハ、國カ一定ノ資格ヲ定メ、其ノ待遇ヲ爲ス職員ニ付キテハ、國カ一定ノ資格ヲ定メ、其ノ待遇ヲ明カニシ、其ノ職務及服務并ニ進退ニツキテ規定ヲ設クルハ、當然ノ事タリトス。況ンヤ其職員タル他ノ職業ト異ニシテ、人ノ精神界ニ感化ヲ與ヘ、以テ國民タルヘキ性格ヲ作ルヘキ事業ニ從フモノナルニ於テヤ。是レ本章ノ規定アル所以ナリトス。今本章ヲ舊令ノ相當セル條章ト比較スルニ、大ニ異ナル点アルヲ見出スヘシ。舊令ニ於テハ小學校職員ヲ市町村吏員ノ性質ト國ノ職員ノ性質トヲ混有セルモノトシテ見タル立脚点ヨリ、其ノ待遇進

緒論ニ
照シテ

退等ヲ規定セリ。然ルニ本令ニ於テハ國ノ營造物ノ要素ヲ爲ス職員トシテ、即チ國ノ教育事務ヲ直接執行スル職員トシテ見タル立脚点ヨリ、是等ヲ規定シタリ。蓋シ斯ノ如クシテ始メテ小學校職員ヲシテ充分ニ、其職責ヲ尽サシメ、以テ小學教育事務ノ奏功ヲ期スルヲ得ヘキナリ。尙第八節第六十條第六十五條ヲ參看スベシ。

第三十九條

小學校ノ教科ヲ教授スル者ヲ本科正教員トシ其ノ教科目中圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、商業又ハ手工ノ一科目若ハ數科目ヲ限リ教授スル者ヲ專科正教員トス

本科正教員ヲ補助スル者ヲ准教員トス

本條ハ小學校職員ノ種別ヲ規定ス。即チ左ノ如シ

舊令ニ

十年勅令百六十六號
師範學校
第一條

舊令ニ
テハ總
テハ檢
ナリヒ
タリ

限ラル。

一、師範學校(高等師範學校女子、高等師範學校ヲ含マス)ヲ卒業スルコト。

二、文部大臣ノ指定シタル學校ヲ卒業スルコト。

三、檢定(無試驗檢定)ニ合格スルコト。

右ノ内孰レカーツニ該當スレハ、府縣免許狀ヲ受ケ得ラル、ナリ。

而シテ第二ノ指定學校ハ未タ明カナラサレバ、小學校教員タルニ必須ナル學科ヲ設ケタル學校ノ内ニテ、指定セラル、モノアルヘキカ。例エハ、教育ノ教科ヲ加ヘタル高等女學校ノ如キハ然ルヘキモノカ。

普通免許狀ヲ受クル途ハ、本令ニハ規定セラレス。施行規

則第四章第百十六條ニ規定セララル。

第三項ノ規定ハ施行規則第四章ニ規定セララル。

第四十二條

特別ノ事情アルトキハ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ小學校准教員ニ代用スルコトヲ得

代用教員ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム

施行規則第五節
第五條
アリ

訓令中
代用教員

本條ハ實際ノ必要上ヨリ新ニ規定セラレタルモノナリ。

舊令ニテハ本科正教員又ハ之ニ代用スル本科准教員ヲ以テ總テノ學級ヲ担任セシムル規定ナリシカ、事實ハ資格アル教員數ノ學級數ニ比シ殆ント不足スルコト凡ソ四分ノ一ナリ。是等ハ或ハ地方長官カ便宜ノ方法ヲ以テ雇教員ヲ採用セシメ、教授ニ差間ヘナキ様ナサシメ來リ

員ニ關スル部參看

シカトモ、公ニ認メラレタルニアラサルカ故ニ、其ノ弊害少ナカラサリキ。且ツ中學校高等女學校等亦無資格教員ヲ認メラル、ノ今日、小學校ニ於テノミ之ヲ認メラレサルノ理アルヘカラス。是レ本條ノ規定アリシ所以ナルヘシ。

第四十二條

市町村立小學校長ハ其ノ學校ノ本科正教員ヲシテ之ヲ兼テシムヘシ

舊令ニテハ單ニ教員ヲシテ之ヲ兼テシムコトヲ規定セルノミニテ、文部省令ニテ本科正教員中ニ就キ兼任セシムルヲ常例トスト規定セリ。本令ニテハ本文ノ如ク改メラレタル也

第四十四條

小學校長ノ稱ハ明治十四年勅令第二百八十八號ニテ定メ

メヲル

附録ヲ見ヨ

市立小學校長及教員ノ任用ハ市長ノ申請ニ依リ町村立小學校長及教員ノ任用ハ部長ノ申請ニ依リ府縣知事之ヲ行フ

市町村立小學校長及教員ノ解職ハ府縣知事之ヲ行フ
舊令ニテハ初ハ左ノ如キ規定ナリキ。

市町村立小學校ノ教員ハ市町村長ニ於テ薦舉スル所ノ三名以下ノ候補者ニ就キ之ヲ任スルモノトス(第十九條第一項)

其ノ第二項第三項ハ第一項ト關聯スルモノナレトモ、今用ナキニ依リ之ヲ略セリ。後明治二十六年十二月ニ至リ、勅令第二百六十號任用令ヲ以テ右ノ三項ヲ削除シ、郡市長ノ薦舉スル所トナシ、知事ハ詮衡委員ノ詮衡ヲ經テ之ヲ任用スルコト、ナセリ。而ルニ又明治三十年九月ニ至

勅令第三百十六號ハ
三本六三勅令第
七本六三勅令第
條七本六三勅令第
ヲテ廢ラテ以テ
ルセ

リ、勅令第三百十六號ヲ以テ之ヲ改正シ、郡市長ノ推薦ニ依リ地方長官之ヲ任命スルコト、ナシヌ。今本條ノ規定スル所ヲ見ルニ、推薦ノ文字ヲ申請ノ文字ニ改メタルヲ除ク外ハ、其實ニ於テ異ナル所ナシ。然レトモ此文字ヲ改メタル原由ハ、蓋シ本章ノ初メニ於テ述ヘタル如ク、教員ノ性質ヲ舊令ノ見方ト異ニシタル結果ニ依ラスハアラス。舊令ニテモ教員ノ任用解職ハ知事之ヲ行フトイフ規定ハ始メヨリ依然存シ居リ、只任用ノ手續キヲ數次改正セシノミ。

第四十五條

市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與並其ノ支給方法ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ定ム

本條亦舊令トハ大ニ其ノ精神ト規定トヲ異ニス。舊令ニテハ

市町村立小學校教員ノ給料額及旅費額ノ標準並給料旅費其他諸給與ノ支給方法ハ府縣知事ニ於テ之ヲ規定シ文部大臣ノ許可ヲ受クベシ（第六十條）

前項ノ給料額及旅費額標準ノ範圍内ニ於テ教員ニ交付スヘキ給料及旅費ノ額ハ市參事會又ハ町村長ノ意見ヲ聞キ府縣知事之ヲ確定ス（全條第二頁）

勅令第
二號ハ
明治三
十年勅
令第二
號ヲ以
テ教員
俸給ニ
關シ

第二項ハ明治三十年勅令第二號ヲ以テ教員俸給ニ關シ市町村ノ義務額ヲ規定セラレタルニヨリ、之ヲ削除セラレ。從テ勅令第二號中ニ本科正教員ノ俸給額ハ知事之ヲ定メ、専科教員及補助スヘキ准教員ノ俸給額ハ市參事會

点改リ
早晩ヨ
正セキ
ルヘキ
モハキ
思ハル
ハ施行
規定期
五章第
四節第
規定ニ

町村長ノ意見ヲ聞キ知事之ヲ定ムト規定セラル。尚舊令ニハ給料ノ若干分ヲ土地ノ使用又ハ物品ヲ以テ之ヲ換給スルコトヲ得ルコトヲ規定セラレタレトモ本令ニハナシ。

第四十六條

小學校長及教員ノ進退職務及服務ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

舊令ノ規定スル所ト異ナラス。然レトモ文部大臣ノ定ムル所ハ一ハ小學校令ノ精神ニ基キ一ハ時運ノ必要ニ應スルモノナレハ舊令ノ時ニ定メラレタルモノトハ大ニ異ナル点アリテ存ス。其ノ著シキモノヲ舉ケムニ、今小學

校長ノ職務ニツキテ規定スル所左ノ如シ。

舊 學校長ハ校務ヲ整理シ所屬教員ヲ監督スヘシ

新 學校長ハ校務ヲ整理シ所屬教員ヲ統督ス

監督ト統督トハ大ニ異ナリ。統督ストハ、之ヲ統へ督スルニテ學校長ハ教員ヲ指揮スル場合モアルヘシ。要スルニ一小學校ノ事業ヲ舉クルカ爲メニハ、校長ハ己レノ主義方針ヲ立テ、教員ヲシテ之ニ依ラシムル權能ナカルヘカラス。而シテ統督者ハ此權能アリ。是レ本令ハ明カニ學校長ノ職責ヲ重クナシタルナリ。其ノ他枚舉セス。施行規則第五章第一節第二節ニ規定スル所ヲ見ルヘシ。

第四十七條

小學校長及教員ハ教育上必要ト認メタルトキハ兒童ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

但シ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

本條ハ小學校長及教員ノ兒童ニ對スル懲戒權ヲ認め、併セテ其ノ制限ヲ規定シタルナリ。舊令ニテハ法ノ上ニテ公ニ懲戒權ヲ認めサルモ事實上教員トシテ當然懲戒ヲ行ヒ得ヘキコトハ認めタリシナリ。而シテ體罰ヲ加ヘ得サルコトノミ規定セラレアリシモ、本令ノ如ク規定シテ始メテ完シト謂フヘシ。而シテ懲戒權ノ範圍ハ、固ヨリ明瞭ニ指摘スルコトヲ得サレトモ、民法上父母ノ有スル懲戒權ノ範圍ノ外ニ出ツヘキニアラサルハ勿論トス。然レトモ校長教員カ行フ懲戒權ハ公法上ノモノナリ。換言スレハ國家カ校長教員ニ依リテ教育上必要アリタルトキニ限り、教育ヲ受クル兒童ニ對シテ懲戒ヲ行フモノナリ。

然レトモ若シ其行フ懲戒ニシテ其ノ懲戒權ノ範圍ヲ脱スレハ、校長教員タル資格ニ於テナセルニハアラデ、一個人タル其ノ人ノ責任ニ歸ス。

躰罰トハ直接ニ身體ニ苦痛ヲ與フルコトヲ目的トスル罰ヲ指ス。其ノ普通ニ行ハル、モノハ鞭撻ヲ加フルコト或ハ手掌ニテ打ツコト等ナリ。彼ノ直立ヲナサシムル如キハ所罰體罰ニアラス。然レトモ直立ヲ命シタル意味以外ニ走リ長時間ニ涉ルトキハ體罰ノ意義ニ變スベシ。躰罰ノ懲戒ト雖モ妄リニ加フヘキニアラス、教育上必要ヲ認めタルトキニ限ルハ勿論トス。

本條ニ校長教員ト書キ分ケシハ蓋シ校長ハ全校何レノ兒童ニモ懲戒ヲ加フルコトヲ得レトモ、教員ハ其ノ受持

テル児童エ對シテノミ之ヲ加フルコトヲ得ル趣旨ナルヘシ。

第四十八條

市町村立小學校長及教員職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ府縣知事ニ於テ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ譴責減俸及免職トス
私立小學校長及教員ニシテ前項ニ準スヘキ所爲アリタルトキハ府縣知事ハ其ノ業務ヲ停止ス

本條ハ校長教員ノ職務上ノ制裁ヲ規定ス。懲戒處分ハ任命セラレタル者が受クル職務上ノ制裁ナリ。市町村立小學校長教員ノ受クヘキ懲戒處分ハ譴責減俸及免職ノ三トス。而シテ懲戒ハ府縣知事之ヲ行フ

舊令ニテハ違背職務免職ノ四トセリ

施行細則第五節參看
職務ニツキテハ同上第二節ヲ見ルヘシ

懲戒ノ原由トナルヘキ場合左ノ如シ。

一、職務上ノ義務ニ違背シタルトキ。

二、職務ヲ怠リタルトキ。

三、職務ノ内外ヲ問ハス、體面ヲ汚辱スル所爲アリタルトキ。

私立小學校長教員ハ懲戒ヲ行ハルヘキモノニアラス。之レニ對スル制裁ハ行政處分アルノミ即チ其業務ヲ停止スルナリ。其ノ停止ニツキテハ、施行規則第五章第三節ヲ參看セヨ。

私立小學校長教員ニハ職務上ノ義務ニ違背スルトイフ場合アラサルモ之レニ準スヘキ場合ハアルナリ。次ノ第二第三ノ場合ニ於ケル亦全シ。此職務トハ普通ノ職務ト

云フ語ニアラス、任命セラレタル職員ノ職務ナリ。故ニ私立小學校長教員ニハ所謂職務ナルモノナシ、然レトモ其ノ業務ハ即チ國ノ教育事務タル小學校教育ヲ行フモノナレハ、其ノ業務上遵守セサルヘカラサル命令ニ違背スルカ如キハ右ノ第一ニ準スモノトス。又妄ニ欠勤シテ其ノ業務ヲ行ハサル如キハ第二ニ準スヘキモノトス。

第四十九條

小學校教員免許狀ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ効力ヲ失フ

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 信用若ハ風俗ヲ害スルノ罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキ

三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ

小學校教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其情狀重シト認メタルトキハ文部大臣又ハ府縣知事ニ於テ其ノ免許狀ヲ褫奪ス

第一項ハ免許狀ノ効力ヲ失フ場合ヲ規定シタリ、總テ第一項第二項トモ苟モ小學校教員免許狀ヲ有スル者ハ其ノ現ニ教員タルト教員タルト問ハサルナリ、某々ノ刑罰ヲ受ケタルモノハ公權ヲ剝奪セラレ、若クハ之ヲ停止セラルモノナレバ第一項ノ規定ナキモ犯罪者ハ無論教員タルヲ得ヘカラサルハ勿論トス。然レトモ教員ノ職務タル、世ノ風教ヲ維持シ人ノ師表トナルヘキモノナレハ、苟モ社會ニ於テ擯斥セララルヘキ所爲アリタルモノハ一

施行細則第五節第三看

日モ其職ニ居ラシムヘカラス。又教員タラシムヘキニア
ラス。故ニ此ノ如キモノニ對シテハ教員タルヘキ資格ヲ
剝奪スルノ要アリ、而シテ、免許狀ノ効力ヲ失ハシムルニ
ヨリテ此ノ目的ヲ達ス、又第一項ノ各號ニ該當セサルモ
教員タラシムヘキモノニアラサル者ニ對シテハ、行政處
分ニ依リテ其免許狀ヲ褫奪スルナリ、即チ第二項ノ場合
ニアリテハ其ノ所爲カ制裁ヲ加フヘキモノナリヤ否ヤ
ヲ特ニ判セサルヘカラス。從テ之ヲ認メタル場合ニ於テ
ノミ、此ノ制裁ヲ加フヘキモノナルニヨリ、特ニ褫奪スル
ノ必要アルナリ。

第五十條

府縣知事ニ於テ行ヒタル免職若ハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ不服アル

二十三年十月三日法律第五號
訴訟法
要參看ス

者ハ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

前數條ニ舉ケタル制裁中免職ハ重キモノナレハ、其ノ教
員タル分限ヲ保護スル爲メニ特ニ訴願ヲ許シ、業務停止
ト免許狀褫奪トハ免許ヲ取消ス行政處分ナレハ其ノ訴
願ヲ許スコトヲ本條ニ規定セシモノトス。

其ノ訴願ニツキテハ、舊令ニテハ十四日以内ニ之ヲ爲ス
ヘキコトヲ規定セシカ、本令ニテハ其ノ權利ヲ特ニ制限
スルコトヲ撤シテ他ノ訴願スヘキモノト全様ニ爲シタ
リ、而シテ其ノ日限ハ六十日以内ニシテ此日限外ニテモ
特ニ受理セラル場合アリ。
訴願ハ行政訴訟ノ如ク、行政處分ノ取消又ハ變更ヲ求ム
ルモノナレトモ、處分ノ違法タルト否トヲ問ハス、其ノ處

分ニヨリ、利益ヲ侵害セラレントスル場合ニナスヘキモノタリ、是ヲ行政訴訟ト異ナル点トス。

右訴願ノ裁決ニ因リテ知事ノ處分ヲ取消サレタルトキハ、其ノ時ヨリ當然復職スヘキモノトス。然レトモ此等ノ處分ニツキテハ兎ニ角知事ノ處分ヲ正當ト見做スコトヲ得ヘキカ故ニ、取消サル、迄ハ其ノ處分ハ有効ナリ、尤モ勤續等ニ關シテハ其ノ間ハ除算スヘキモ其ノ前後ハ繼續スヘキモノトス。

第七章 費用負擔及授業料

第五十一條

市町村立小學校設置ニ關スル費用ハ市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ノ負擔トス其ノ概目左ノ如シ

- 一 設備及其ノ維持ノ費用
- 二 職員ノ俸給、旅費、其ノ他諸給與
- 三 校費

兒童教育事務委託ニ關スル費用ハ町村、町村學校組合又ハ其ノ區ノ負擔トス

市町村立小學校ハ國ノ營造物ナレトモ、其ノ設置ニ關スル事務ヲ市町村ニ委任シ、從テ其ノ設置ニ關スル費用ハ、市町村等ノ負擔トナスヲ原則トセリ。而シテ其費用トハ、何々ヲ指スヤ、茲ニ其概目ヲ舉ケタルナリ。概目ナレハ是レニ限ルニアラサルコト勿論トス。

設備トハ、第二十九條ニ示セル校舍、校地、校具及體操場ヲ指ス。是等ノ設備ハ一時ニ止マルニ非ス。學校ノアラム限

明治三十一年勅令第二號及施行規程第五節參照

本令第十條

リ其ノ設備ノ缺ケサルヤウ之ヲ維持スルヲ要ス。例エハ校舎ニハ修繕ヲ要シ、校具ノ破損ニハ之カ修復ヲ要スルカ如シ。而シテ如何ナル程度迄設備スヘキカハ、設備規則ノ規定スル所ニ從フヘキナリ。

職員ノ俸給ハ別ニ勅令ニテ規定スル所アレハ、市町村ハ其ノ規定ニ從ヒ支出セサルヘカラス、旅費其ノ他諸給與亦規則ノ依ルヘキモノアリ。

校費トハ第一號第二號ノ費用ヲ除クノ外、學校ニ關スル費用ヲイフ。例エハ校僕ニ關スル費用、薪炭ノ費用ノ如キ是レナリ。

兒童教育事務ニ關スル費用ハ、町村、町村學校組合又ハ其區ニテ負擔スヘキモノトス。其ノ區ニテ負擔スヘキ理由

ノ條下ニ於テハ、町村ノ小學校ヲ使用スルコトナレハ、町村内ノ其ノ部分ノ兒童ノ教育事務ヲ他町村ニ委託ストハ、即チ其ノ町村ノ某部分ヲシテ、他町村ノ小學校ヲ使用セシムルコトナリ。從テ本令第十一條ノ處分ヲ受ケタル場合ニ於テハ、其ノ町村内ノ某部分ハ、兒童教育事務委託ニ關スル費用ヲ其ノ部分限リニテ負擔セサルヘカラサルコト、ナルナリ。

ハ地方學事通則第二條第三項ニ根據スルモノトス。

固ト教育事務ノ委託トハ、他町村ノ小學校ヲ使用スルコトナレハ、町村内ノ其ノ部分ノ兒童ノ教育事務ヲ他町村ニ委託ストハ、即チ其ノ町村ノ某部分ヲシテ、他町村ノ小學校ヲ使用セシムルコトナリ。從テ本令第十一條ノ處分ヲ受ケタル場合ニ於テハ、其ノ町村内ノ某部分ハ、兒童教育事務委託ニ關スル費用ヲ其ノ部分限リニテ負擔セサルヘカラサルコト、ナルナリ。

高等小學校ニ關シテハ、法ノ上ニテ兒童教育事務ノ委託トイフコトナシ。故ニ高等小學校ノ生徒ヲ他町村ニ通學セシムルコトアリトスルモ、其ノ費用ヲ區ニテ負擔スルヲ得ズ。

ニ依ル
ヘキモ
ノトス

第五十二條

郡長ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ又ハ兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所アルトキハ其ノ學校組合内ノ某町村ヲシテ其ノ數校中ノ一校若ハ數校ノ設置又ハ兒童教育事務委託ニ關スル費用ヲ一町村限り負擔セシムルコトヲ得

前項ノ處分ヲ爲シ又ハ之ヲ止メムトスルトキハ關係町村及町村學校組合ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

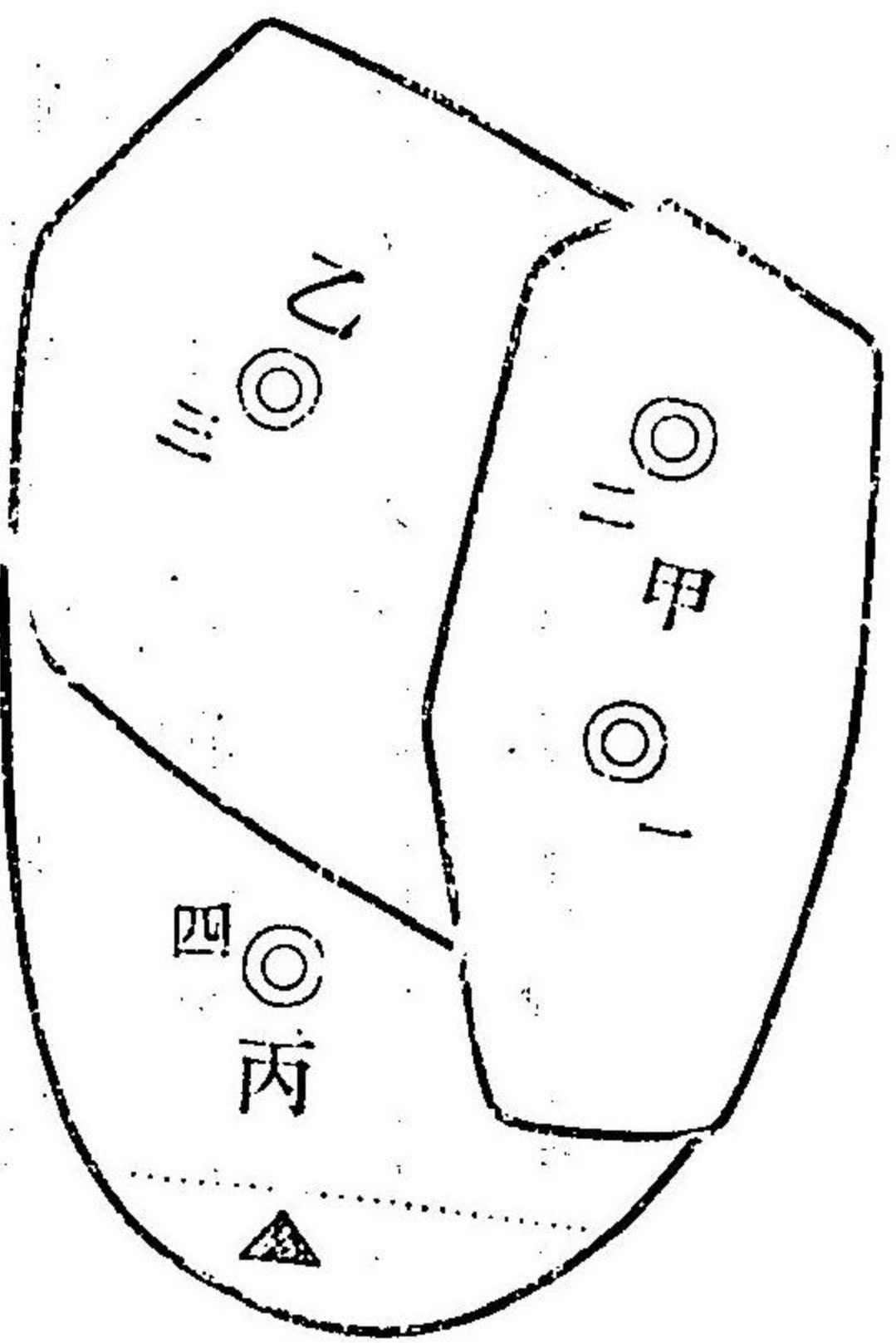
町村學校組合ニ於テハ、小學校設置等ニ關スル費用ハ、町村學校組合ニ於テ負擔スヘキモノナリ。然レトモ町村ハ元來一區域ヲ爲セル自治法人ナルカ故ニ、各別ニ其ノ費用ヲ負擔スルコト、法律上(町村制)毫モ妨ケナクシテ、却テ實際ニ便利ナルコトアリ。故ニ本條ノ規定アリ。

本條ヲ分拆スレバ左ノ二トナル。即チ郡長ハ(第二項ノ手續ヲ經テ)

一、町村學校組合ニ於テ、設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ、學校組合内ノ某町村ヲシテ、其ノ數校中ノ一校若クハ數校ノ設置ニ關スル費用ヲ、一町村限り負擔セシムルコトヲ得。

二、町村學校組合ニ於テ、兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所アルトキハ、學校組合内ノ某町村ヲシテ其ノ委託ニ關スル費用ヲ一町村限り負擔セシムルコトヲ得。

今之ヲ圖解スレハ左ノ如シ。



◎ハ學校ノ位置ヲ示ス。
 ▲ハ兒童教育事務委託ヲ要スル場所ヲ示ス。即チ点線ヲ以テ畫セル部是ナリ。

甲乙丙ノ三町村ヨリ成ル町村學校組合アリトセヨ。甲町内ナル學校ニハ乙丙ヨリ通學スル兒童アリ。又乙丙ニ於ケル學校ニモ全様ノ關係アリ。是レ學校組合ノ成リタル所以ナリトス。(第八條第一號ノ場合、時トシテハ第七條ノ場合ヲ包含スルコトモアラム)而シテ亦此組合ハ第八條第三項ノ例ヲ適用スヘキ▲符ノ部分アリ。然ルモキハ、本

條ニ依リ甲町ヲシテ第一校第二校、乙村ヲシテ第三校、丙村ヲシテ第四校並ニ委託ニ關スル費用ヲ負擔セシムルコト、ナストキハ、頗ル便宜ニシテ、區會ヲ設クル手數ト費用トヲ省略スルコトヲ得ヘシ。

第五十二條

郡長ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリト認メタルトキハ郡ハ町村又ハ町村學校組合ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ。

一 町村ニシテ第七條ノ事情アルモ同條ニ依ルコトヲ得サルトキ

二 町村學校組合ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ

又ハ町村學校組合ノ一部タル町村ノ資力其ノ學校組合費ノ分擔ニ堪ヘサルトキ

三 町村又ハ町村學校組合ノ資力兒童教育事務委託ニ關スル費用ノ負擔ニ堪

へサルトキ

前項ノ認定ニ付テハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ市町村カ其ノ生存發達上、其ノ住民ニ對シ相當ノ教育アルコトヲ求ムルハ、恰モ國カ國民ニ對シテ之ヲ求ムルト異ナラス。即チ教育上、國ト市町村トハ其ノ利害一致スル所アルナリ。是レ國ハ國民ニ對シ義務教育ヲ受ケシムヘキコトヲ命シ。且分權ノ原則ニヨリテ、國カ爲スヘキ教育事務中、學齡兒童ヲ収容シテ義務教育ヲ遂行スルニ要スヘキ事業ヲ、市町村ニ委任セシ所以ナリトス。然レトモ市町村カ其ノ負擔ニ堪ヘサル場合ナキニアラス。本條並ニ第五十四條ノ規定アルハ其場合ニ應スヘキ方法ヲ示サムトテナリ。

郡長ニ於テ次ニ掲クル場合ノ、孰レカノ一ニ該當スルモノアリト認メタルトキハ、郡會ニ於テ議決シ、郡費ヲ以テ其ノ町村又ハ町村學校組合ニ相當ノ補助ヲ與フヘキモノトス。尤モ右ノ認定ニ付テハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ聞キ、府縣知事ノ指揮ヲ受クヘキナリ。

其ノ場合ハ、
 一、町村ニシテ尋常小學校設置ニ關スル費用ノ、負擔ニ堪フヘキ資力ナキモ、(第七條ノ事情郡長ハ其ノ町村ヲシテ他町村ト學校組合ヲ設ケシムルコトモ出來スト認メタルトキ〔第一號〕
 二、町村學校組合ニシテ其ノ學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪フヘキ資力ナキトキ〔第二號前段〕

三、町村學校組合ノ一部タル某町村カ、其ノ學校組合費ノ負擔ニ堪フヘキ資力ナキトキ〔第二號後段〕

四、町村又ハ町村學校組合カ、兒童教育事務委託ニ關スル費用ノ負擔ニ堪フヘキ資力ナキトキ〔第三號〕

右第二、第三、第四、ハ主トシテ第八條ノ場合ニ起ルヘキモノトス。是レ第八條ハ町村ノ資力ノコトニ關セス、他ノ事由ニヨリテ學校組合ヲ設ケシルモノナレハ、其ノ學校組合ニシテ其ノ費用負擔ニ堪フヘキ資力ナキコトモアルヘシ。是レ本條ニ於テ其ノ場合ニ應スル方法ヲ規定セル所以ナリ。其ノ第七條ノ場合ハ始メヨリ資力ノ關係ヨリ、學校組合ヲ設ケシルモノナレハ、成立シタル學校組合ニシテ補助ヲ要スヘキ薄弱ノ資力ナランハ、始メヨリ組

合ハシムルノ類ヲ爲サバルニ如カス。然レトモ第七條ニ依リ成リタル學校組合ニハ亦第三條ノ如キ場合ナキニアラス。故ニ本條ハ第七條第八條ニ對スル後口楯ナリト見テ可ナリ。

第五十四條

府縣知事ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリト認メタルトキハ府縣ハ郡又ハ市ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

- 一 郡ノ資力第五十三條ノ補助ノ負擔ニ堪ヘサルトキ
 - 二 市ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ
- 前項ノ認定ニ付テハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

府縣知事ハ郡ノ資力カ、前條ノ補助ヲ爲スニ堪ヘスト認

メタルトキ、又ハ市カ尋常小學校設置ノ費用ノ負擔ニ堪
フヘキ資力ナシト認メタルトキハ、府縣費ヲ以テ郡又ハ
市ニ相當ノ補助ヲ爲スヘキモノトス、但シ其ノ認定ニ付
キテハ府縣知事、府縣參事會ノ意見ヲ聞キ文部大臣ノ
指揮ヲ受クヘキモノタリ。

第五十五條

區長及其ノ代理者並學務委員ニ於テ國ノ教育事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費
用ハ市町村又ハ町村學校組合ノ負擔トス但シ區長及其ノ代理者並區ノ學務委
員ニ關スル費用ハ市町村會又ハ町村學校組合會ノ議決ヲ以テ之ヲ區ノ負擔ト
爲スコトヲ得

市町村長カ國ノ教育事務ヲ執行スル爲メニ要スル費用
ハ、當然市町村ノ負擔タルヘキコトハ、市制第七十四條、町

地方學
事則
第六條
第六條
第十一條
第十二條
第十三條
第十四條
第十五條
第十六條
第十七條
第十八條
第十九條
第二十條
第二十一條
第二十二條
第二十三條
第二十四條
第二十五條
第二十六條
第二十七條
第二十八條
第二十九條
第三十條
第三十一條
第三十二條
第三十三條
第三十四條
第三十五條
第三十六條
第三十七條
第三十八條
第三十九條
第四十條
第四十一條
第四十二條
第四十三條
第四十四條
第四十五條
第四十六條
第四十七條
第四十八條
第四十九條
第五十條
第五十一條
第五十二條
第五十三條
第五十四條
第五十五條
第五十六條
第五十七條
第五十八條
第五十九條
第六十條
第六十一條
第六十二條
第六十三條
第六十四條
第六十五條
第六十六條
第六十七條
第六十八條
第六十九條
第七十條
第七十一條
第七十二條
第七十三條
第七十四條
第七十五條
第七十六條
第七十七條
第七十八條
第七十九條
第八十條
第八十一條
第八十二條
第八十三條
第八十四條
第八十五條
第八十六條
第八十七條
第八十八條
第八十九條
第九十條
第九十一條
第九十二條
第九十三條
第九十四條
第九十五條
第九十六條
第九十七條
第九十八條
第九十九條
第一百條

村制第六十九條ニヨリテ明カナリトス。而シテ區長及其
ノ代理者並學務委員カ國ノ教育事務ヲ執行スル爲メニ
要スル費用ハ、地方學事通則第二條第六條ヲ根據トシテ、
之ヲ見レハ市町村ノ負擔スヘキ性質ノモノタルハ必然
ノ事タリ、即チ本條ノ規定ヲ設ケテ之ヲ明カニス。而シテ
其ノ費用ハ市町村又ハ町村學校組合ノ負擔トスヘキヲ
通則トスレバ、其ノ市町村會又ハ町村學校組合ノ議決ニ
依リ、之ヲ區ニ負擔セシムルコトヲ得ルモノトス。(學務委
員ハ區ノ學務委員ニ關スルモノニ限ル)。

第五十六條

小學校教員檢定並小學校教科用圖書審查及府縣免許狀ニ關スル費用ハ府縣ノ
負擔トス

小學校教員檢定、小學校教科用圖書審査ノ事タル固ト國ノ教育事務ナレトモ、其ノ府縣ニ屬スルノ故ヲ以テ、其ノ費用ヲ府縣ニ負擔セシメタリ。而シテ又府縣免許狀ニ關スル費用モ同様ナリトス。

第五十七號

市町村立尋常小學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得ス但シ補習科ハ此ノ限ニ在ラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受ケ市町村立尋常小學校ニ於テ授業料ヲ徵收スルコトヲ得

舊令ニテハ、兒童保護者ハ授業料ヲ納ムヘキ義務ヲ原則トシテ規定シタレトモ、本令ニテハ義務教育ニ關シテハ無月謝主義ヲ採用シ、全國ヲシテ普ク此主義ニ準據セシ

ムコトヲ期セリ。然レトモ沿襲ノ久シキ授業料ヲ以テ市町村教育費ノ一大財源トナシ來レルモノナキニアラ子ハ、直ニ之ヲシテ新令ノ主義ニ依ラシムルコト市町村ノ經濟ヲ紊スノ虞レナキニアラス、是ヲ以テ第一項ニ其本則トシテハ市町村立小學校ハ授業料ヲ徵收スベカラサルコトヲ示シ、第二項ニ變則ノ場合ヲ規定セリ。特別ノ事情トハ如何ナルモノヲ指スカ、思フニ主トシテ市町村經濟ノ事情ヲ參酌シテ認メラル、コトナラム。

授業料ハ別ニ明文ナキモ兒童保護者ノ負擔スヘキモノタルハ言ヲ竣タサル所トス。但シ保護者ト兒童トノ間ニ存スル民法上ノ關係ハ別問題ナリトス。

高等小學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルト否トハ市町村

ノ定ムル所ニ任カス。然レトモ第五十九條ノ授業料ニ關
 スル規定ニ從フヘキモノタルハ勿論ナリトス。
 授業料ノ性質ニツキ一言セム、授業料ハ公法上ノ手数料
 ナリ。或ルモノハ授業料ハ營造物ヲ使用スルヨリシテ生
 スル使用料ナリトスルモノアレトモ、決シテ然ラス。國家
 ハ義務教育ヲ臣民ニ強行センカ爲メ、小學校ナル營造物
 ヲ設ケ自ラ之ヲ使用シテ其ノ目的ヲ達セムトス。臣民カ
 任意ニ其ノ營造物ヲ使用スルニハアラス。故ニ國家ハ其
 ノ報償ヲ受ケサルヲ至當トス。然レトモ兒童ヲ教育スル
 ハ親權ヲ行フモノ、義務ニシテ、學校ニ兒童ヲ出席セシ
 ムルハ即チ兒童ヲ教育スルノ義務ヲ果ス手段ナレハ、國
 ニ對シテ其ノ手数料ヲ納ムルコト所由ナキニアラス、唯

授業料ニ關シテハ尙シテハ明治二十年勅令第二十號ヲ要スル

國家ノ側ヨリ見レハ義務教育遂行ノ主義ニ抵觸スル所
 アルノミ。

第五十八條

市町村立小學校ノ授業料ハ市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ノ收入トス

本條ニ於テ授業料ハ其ノ學校置ノ費用ヲ負擔セル市
 町村、町村學校組合又ハ其ノ區ノ收入タルコトヲ明示ス。
 授業料ナルモノハ、國カ小學校ナル營造物ヲ使用シテ施
 ス所ノ教育ヲ受クル人ヨリ納ムヘキ手数料ナレハ、其ノ
 市町村立小學校ニ於テ徵收スル授業料ハ當然國ニ屬ス
 ヘキモノナレトモ、本條ノ規定ヲ以テ市町村等ノ收入ニ
 歸セシメタルナリ。

第五十九條

施行細則第六條參看

授業料ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

授業料ハ、其ノ市町村立小學校ニ關スルモノニツキテハ、國ノ收入トナルヘキモノナレハ、國カ其ノ規定ヲ設クルコト當然ナルノミナラス、若シ之ヲ設ケスシテ市町村ノ任意トセンカ、小學校令ノ本旨ヲ達スルコト能ハサルヤモ知ルヘカラス。依テ本條ノ規定アリ。其ノ私立小學校ノ授業料ノ如キハ、固ト私人ニ對スル一ノ報償ナレハ、民法上ノ契約ニ屬スヘキモノニシテ、國カ干涉スヘキモノニアラス。又干涉スルノ要アラサルモノトス。サレハ文部大臣カ定ムル授業料ニ關スル規定ハ私立小學校ヲ拘束セス。

第八章 管理及監督

第六十條

市町村長又ハ町村學校組合長ハ市町村又ハ町村學校組合ニ屬スル國ノ教育事務ヲ管掌シ市町村立小學校ヲ管理ス

本令ハ舊令ト異ナル点ニアリ。一ハ町村學校組合長ヲ市町村長ト全視シタルコト、一ハ市町村長カ學校長ノ管理ニ屬スル事務ヲ監督スルコトヲ廢シタルコト、是レナリ。本條ニ於テ規定スル所ニヨレハ、市町村長又ハ町村學校組合長ハ、

一、其ノ市町村又ハ町村學校組合ニ屬スル國ノ教育事務ヲ管掌ス。

二、其市町村立小學校ヲ管理ス。

固ト是等ノ事タル國ノ教育事務ナレハ、分權ノ原則ニ依

七令第一條
市町村ニ
屬スル
市町村
監督ス
之ヲ
事務
監督ス
ハ
長若ク
ハ
管理
シ
シ
育事
國ノ
事務
市町村
立小
學校
長カ
管理
ス
市町村
長又
ハ
市町村
學校
組合
長ハ
市町村
又ハ
市町村
學校
組合
ニ
屬ス
ル國
ノ
教育
事務
ヲ
管掌
ス

ナシテ可解ト

リテ分權ノ一方法タル市町村ノ或ル特定ノ人即チ市町村長(及ヒ町村學校組合長)ニ委任シタルナリ。故ニ市町村長ハ市町村ニ首長タル故ニ、市町村立小學校ノ管理者タルニアラスシテ、本條ノ規定アリテ始メテ其ノ管理者タルナリ。即チ本條ノ職務ニツキテハ、自治團體ノ役員トシテ之ヲ行フニハアラデ、國ノ官吏ノ性質ヲ帶ヒテ行フモノナリ。而シテ市町村長ヲシテ是等ノ職務ヲ負ハシメタル所以ハ、蓋シ是等ノ事タル固ト市町村ト密接ノ關係ヲ有スルモノナルカ故ニ、其ノ市町村ノ首長タル者ニ委任スルヲ以テ、自他ノ便益ナリトスレハナリ。

市町村ノ營造物ノ管理ハ、市制町村制ニ規定スル所アリテ市ニ在テハ市參事會、町村ニ在テハ町村長之ヲ管理ス

其ノ概
目ヲハ
クテハ
教育及
練習等
生徒ノ
出立等
止メ如
等ノ如
シテ見
六條ヲ
ヨテ見

ルヲ原則トセリ。然ルニ市町村立小學校ハ、市町村ノ營造物ニアラスシテ國ノ營造物タルカ故ニ、特ニ本令ニテ其ノ管理者ヲ定メタルナリ。

學校管理者ハ、學校長教員ノ執行スル國ノ教育事務ニツキテハ、何等關スル所ナシト雖モ、其ノ學校長教員カ、營造物ノ一要素タル物ヲ使用スル上ニ就キテハ、大ニ關スル所ナクムハアラス。蓋シ市町村立小學校ノ管理ハ、主トシテ其ノ物ニ關スルモノニツキテ行ハル、モノナリ。

第六十一條

府縣知事ハ市町村又ハ町村學校組合ノ區長及其ノ代理者ヲシテ市町村長又ハ町村學校組合長ノ指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

區長及其代理者ナルモノハ、市町村ノ吏員ナルカ政ニ、國政事務ニツキテハ關スルコトヲ得サルモノナリ。然ルヲ地方學事通則第二條第四項ノ根據ニヨリテ、本令ニテ國ノ行政事務ヲ取扱ハシムルコトヲ規定セルナリ。本條ノ規定ニ依レハ、府縣知事カ之ヲ爲サシムルニ非レハ、區長及其ノ代理者ハ國ノ教育事務ヲ補助執行スルコトヲ得サルモノナリトス。

第六十二條

市町村ハ教育事務ノ爲市制第六十一條町村制第六十五條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但市會町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス
町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規定ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ
市町村又ハ町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規定ニ依リ其ノ區ニ學務委員

ヲ置クコトヲ得

學務委員ニハ市町村立小學校男教員ヲ加フヘシ

委員中教員ヨリ出ツル者ハ市町村長又ハ町村學校組合長之ヲ任免ス

市町村ハ、必ス學務委員ヲ置クヘク、又町村學校組合ハ必ラス條例ヲ設ケ學務委員ヲ置クヘキコトヲ規定ス。其ノ根據ハ地方學事通則第六條第一項ナリ、市町村又ハ町村學校組合ノ區ニハ條例ヲ設ケテ、學務委員ヲ置キ得ルコトヲ規定ス。其ノ根據ハ全第六條ノ第二項トス。

學務委員ナルモノハ、市町村ノ常設委員ノ一種ナリ。唯市町村カ任意ニ設定シ得ヘキノモノニアラスシテ、地方學事通則ノ命スル所ニ從テ、設定スヘキモノトス。

舊令第七條
市(町村)會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得但其委員ハ名譽職トス第二項以下畧ス)

(參照)市制第六十一條町村制第六十五條
市(町村)ハ市(町村)會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得但其委員ハ名譽職トス第二項以下畧ス)

第六十二條

學務委員ニハ市町村立小學校男教員ヲ加ヘサルヘカラス。但シ其ノ人數ニ付キテ舊令ノ如キ制限ナシ。
學務委員ノ職務其ノ他學務委員ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム
舊令ニハ此規定ナシ。學務委員ヲシテ國ノ教育事務ニ關シ有効ノ機關タラシムル爲ニハ規定ノ設ケアルヲ便ナリトス。

第六十四條

市町村制ニ依ル

市町村吏員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スル者ニ就キテハ市制第百廿四條町村制第百廿八條ノ規定ニ依ル

本條ノ根據ハ地方學事通則第八條ニ「府縣郡市町村吏員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ其ノ懲戒ノ規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル」トアルニ依ル。

(參照)市制第二百二十四條

府縣知事ハ市長、助役、市參事會員、委員、區長其他市吏員ニ對シ「懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及過怠金トス」其ノ過怠金ハ二十五圓以下トス(第二項畧ス)

町村制第二百二十八條

府縣知事郡長ハ町村長助役、委員、區長、其他町村吏員ニ對シ「云々」郡長ノ處分ニ係ル過怠金ハ十圓以下府縣知事ノ處分ニ係ルモノハ二十五圓以下トス（第二項各ス）

第六十五條

市立小學校長及教員ノ執行スル國ノ教育事務ハ府縣知事之ヲ監督シ町村立小學校長及教員ノ執行スル國ノ教育事務ハ郡長之ヲ監督ス

本條ハ全ク新シキ規定ニ係ル。本令ハ市町村立小學校ヲ國ノ營造物トシテ見タルカ故ニ、其ノ一要素タル職員ノ待遇等ニツキテ舊令ノ立法ノ趣旨トハ、大ニ趣ヲ異ニスルモノアリ。抑モ市町村立小學校長及教員ハ國ノ命スル所ニ從ヒ、國カ要求スル普通教育ノ内容實質ヲ第二ノ國民タルヘキ兒童ニ授クル大任ヲ帶フルモノナレハ、國ハ

出來ル丈ケ之ヲ敬シ、之ヲ重ンスルコトヲ務ムヘキコト勿論ナリトス。本令ハ實ニ此ノ点ニ於テ充分注意セルヲ見ル。故ニ其ノ任用、待遇等ノ上ニ於テ大ニ舊令ニ優ル所アリ。而シテ又小學校長及教員ハ、國ノ注文ヲ受ケテ其ノ職ニ服スルモノナレハ、之ヲ監督スルコトモ、國カ成ル丈ケ直接ニ之ヲ爲スヲ要ス。舊令規定ノ如ク、市町村長ヲ通シテ監督スル如キハ、現今ノ事情ニ適シタルモノニアラス。故ニ本令ニテハ、市町村立小學校長及教員カ執行スル國ノ教育事務ニ付キテハ、府縣知事若クハ郡長カ之ヲ監督スヘキコトヲ、明カニ規定シ以テ小學校長教員ヲシテ、益々其ノ職責ヲ盡サシムルニ於テ遺憾ナキコトヲ期シタルナリ。

尙圖解セムニ、舊令ニテハ

府縣知事

郡長——町村長……町村立小學校長教員
市長……市立小學校長教員

然ルニ、本令ニテハ

府縣知事

市長
市立小學校長教員
町村長町村學校組合長
町村立小學校長教員

前表點線ニテ示シタルハ、國ノ教育事務執行ニノミ關シテ行ハル、監督被監督ノ關係ヲ表ハシタルナリ。

何トハ如
育事ノ教
國ノ事務

扱小學校長教員カ執行スル國ノ教育事務トハ如何。

抑モ國ノ教育事務トハ、國カ自ラ之ヲ爲スモノ、及ヒ國カ文部大臣、府縣知事、郡長ヲシテ各々其ノ職權ノアル範圍内ニテ之ヲ行ハシムルモノヲ除クノ外、尙地方自治團體又ハ其ノ吏員ニ委任シテ、之ヲ行ハシムルモノアルハ、前各條ニツキテ説ク所ニヨリ瞭解セシ所ナルヘシ。

尙例ヲ舉ケテ之ヲ明カニセムニ、小學校ノ本旨ヲ定ムルハ、國ガ自ラ之ヲ爲スヘキモノナレバ、即チ勅令ヲ以テ之ヲ定メタリ。又義務年限ヲ定ムル如キ、小學校教員ヲ免許スル根本ノ規定ノ如キモ、國自ラ之ヲ定メタリ。而シテ小學校教員ヲ定ムルコト、學校ノ編制ニ關スル規定ヲ設クルコトノ如キハ、文部大臣ノ爲スヘキモノトセリ。其ノ他

府縣知事、郡長ノ爲スベキコトノ如キハ、今之ヲ列舉セザルモ讀者ノ瞭解スル所ナラム。

小學校長及教員カ執行スル國ノ教育事務トハ、即チ小學校ノ本旨ヲ達セムカ爲、小學校教則等ニ準據シテ、其ノ知徳ト其ノ才幹ト其ノ技術トニ依リテ行フ所ノ、教育其ノモノヲ謂フナリ。實ニ小學校長教員ナカラムニハ、他ノ教育事務ハ盡ク舉ガリテ些ノ遺憾ナシトスルモ、焉ソ能ク小學校ノ本旨ヲ達スルコトヲ得ヘケン乎。

小學校長及教員カ行フ國ノ教育事務ニシテ、本令第三十八條ニ規定セルガ如キモノアリ。又其ノ他小學校令施行規則中ニ列舉スルモノ少カラス。

第六十六條

私立小學校ニシテ市内ニ在ルモノハ府縣知事之ヲ監督シ町村内ニ在ルモノハ郡長之ヲ監督ス

本條ニハ、私立小學校ノ監督官廳ヲ規定セリ。私立小學校ハ一ノ私立學校ナルカ故ニ本條ノ規定チキトキハ、私立學校令第一條ニ依リ、スヘテ地方長官ノ監督ニ屬スルモノタリ。而シテ又幼稚園、盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ニツキテハ、本令ニ規定アルモノ、外ハ文部大臣ノ定ムヘキモノナレハ、其ノ監督官廳ハ本條ニ依ルヘキ限ニアラス。

第九章 附則

第六十七條

本令ハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ小學校ノ教科目並教則及授

業料ノ徵收ニ關シテハ明治三十四年三月三十一日ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル本令ノ施行時期ヲ定ム但書ヲ設ケタルハ小學校ノ教科目並ニ教則ニ關シテハ、學年ノ半途ヨリ施行シ難キニ依リ、授業料ノ徵收ニ關シテハ既ニ本年度ノ豫算ノ確定シテ、施行中ニ屬スルニ依ル。

第六十八條

本令ハ市制町村制ヲ施行シタル地ニ之ヲ施行ス

前條ハ其ノ施行ノ時期ヲ規定シ、本條ハ本令ヲ施行スヘキ地ヲ規定シタルナリ。而シテ市制、町村制ヲ施行セサル北海道、沖繩縣、其ノ他嶋嶼ノ地ニ在リテハ、明治二十五年四月勅令第四十號「市制、町村制ヲ施行セサル地方ノ小學校教育規程」ニ依リテ小學校令ノ幾部分ハ施行セラル、モ

ノトス。

第六十九條

明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三十三條ニ依リ設ケタル町村學校組合ハ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄之ヲ存續スルコトヲ得

舊令ハ廢止サレタルニアラスシテ、本令ニヨリテ改正セラレタルナリ。サレハ舊令ノ規定ニ依リタルモノニシテ、新令ノ規定ニ抵觸セサルモノハ、尙繼續セラルヘキハ、法理上當然ノ事ナリトス。而シテ舊令第三十三條ノ如キ規定ハ本令ニハアルナシ、故ニ其ノ規定ニ依リテ設ケタル町村學校組合ハ當然廢止セラルヘキモノナレトモ、實際上ノ便益ヲ量リ、本條ノ規定ヲ設ケラル。

(參照)舊令第三十三條

第七十一條

設既ノ尋常小學校ニシテ體操場ノ設備ナキモノハ明治三十八年三月三十一日迄其ノ設備ヲ猶豫ス

前項ノ場合ニ於テハ其ノ期間内體操科ヲ闕クコトヲ得

舊令第十七條ニ依リ、特別ノ事情アリテ體操場ヲ備ヘサルコトヲ得タルモノアリ。然ルニ本令ニテハ何レノ學校ト雖トモ體操場ヲ缺クコトヲ得ス。故ニ本條ノ規定ヲ要ス。

第七十二條

本令施行前ニ授與シタル小學校教員免許狀ハ本令施行後仍其ノ効力ヲ有ス但シ小學校專科准教員ノ免許狀ハ此ノ限ニ在ラス

小學校教員免許狀ハ、本令施行ノ際現ニ有効ノモノニ限

リ本令施行後ニテモ尙其ノ効力ヲ存續ス。而シテ本令ニ規定シタル小學校教員免許狀ノ効力トノ異同ハ、別ニ他ノ規定ヲ待タサルヘカラス。小學校令施行規則第十章第二百零七條ハ即チ其規定ナリ。而シテ其ノ規定ニ依レハ從前ノ免許狀ニシテ有期ノモノト雖モ、現ニ本令實施ノ際有効ノモノハ、無期ニ有効ナルコトヲ認メラレタリ。尤モ施行規則中ニ規定セル免許狀ニ相當セサルモノハ此限ニアラストス。

第七十三條

明治二十六年勅令第四百四號及明治三十年勅令第三百十六號ハ之ヲ廢止ス

明治二十六年勅令第三十四號及明治三十年勅令第四百七號ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ廢止ス

本條中ノ勅令ハ左ノ如シ

一、小學校圖書審査委員組織中追加ニ關スル件(明治二十六年勅令第三百四號)

二、市町村立小學校教員任用ノ件(明治三十三年勅令第三百十六號)

右二勅令ハ本令實施ト共ニ廢止セララル

三、市町村立尋常小學校ニ於テ授業料ヲ徵収セサルコト

ヲ得ル件(明治二十六年勅令第二百四號)

四、市町村立小學校ノ授業料額ノ制限等ニ關スル規定(明治

三十年勅令第四百七號)

右二勅令ハ明治三十四年四月一日ヨリ廢止セララル、

モノナリ

舊令ノ規定ニ基キ發布セラレタル省令等ニシテ新令實施ノ爲メ廢止セララルヘキモノハ、施行規則ノ附則ヲ以テ

示サレタリ。而シテ或ルモノハ改正小學校令實施ト共ニ廢止トナリ、或ルモノハ明治三十四年四月一日ヨリ廢止トナル。

緒論參
看ナ要
ス

結 論

小學校令ハ小學校令施行規則ヲ待テ、始メテ活動スルモノトス。要スルニ勅令ト省令トハ其ノ性質異ルモノニアラス。唯其ノ輕重ニ依リ勅令タリ省令タリ。其ノ形式ハ異ルモ命令タル實質ハ一ナリ。從テ遵由ノ効力ニ甲乙アルヘキモノニアラズ。省令ノ規定ニハ勅令ニテ特別ノ委任ニヨリタルモノト、文部大臣ノ職權上ヨリ出テタルモノトノ別アレトモ、孰レモ小學校令ヲ活動セシムル爲ニ必要トシテ發セラレタルモノトス。施行規則中教則ハ小學校令第一條ノ本旨ヲ達スヘキ根幹ノ規定ナレハ最モ重要ナルモノトス。而シテ教則ヲ外ニシテ小學校教員カ教鞭ヲ執ルヘキ指針ナシト斷言シテ可ナリ。今便宜ノ爲茲

本規
小令
校令
施行
共ニ
行セ
ルシ
ルア
●符
ノ露
明分
四十
日三
施行
ヲ行
ルセ

ニ施行細則ノ目次ヲ示ス。

小學校令施行規則

(明治三十三年八月廿一日
文部省令第十四號)

第一章 教科及編制

・第一節 教則

・第二節 學年、休業日及式日

・第三節 編制

・第四節 補習科

・第五節 圖書審查及採定

第二章 設備準則

第三章 就學

第四章 教員 定及免許狀

第一節 教員ノ檢定

第二節 教員ノ免許狀

第五章 職員

第一節 學校長及教員ノ進退

第二節 學校長及教員ノ職務及服務

第三節 懲戒處分、業務停止及免許狀奪奪

第四節 俸給、旅費及諸給與準則

第五節 代用教員

第六章 授業料

第七章 學務委員

第八章 代用私立小學校

第九章 幼稚園及小學校ニ類スル各種學校

第十章 附則

*附録
ヲ見ヨ

小學教育ニ關スル教育行政法ノ淵源タルヘキ法律命令ハ小學校令ノ外ニ、明治二十三年法律第八十九號*地方學事通則アリテ、市制町村制ト小學校令トヲ結ビ付ケ、又明治二十三年法律第九十號*市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法アリテ、小學校教員カ退隱料等ヲ受クルノ權利ヲ確保シ、小學校教員加俸ノ制ニ關シテハ始メ市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法アリタルカ、之ヲ改メテ明治三十三年三月法律第六十三號*市町村教育費國庫補助法並同年勅令第百卅三號*市町村立小學校教員加俸令トナシテ益々小學校教員ヲ優待スル實ヲ明カニセラレ、市町村カ俸給ヲ支出スルノ義務ニ關シテハ明治三十年勅令第二號*アリ、小學校長教員ノ名稱待遇ニ關シテ

ハ明治二十四年勅令第二百十八號アリ、是等ノ法律命令ノ發セラレタルハ畢竟小學教育カ國ノ經營ニ屬スヘキモノタル大原則ニ基カスンハアラス。而シテ本書ハ專ラ小學教育ニ關スル教育行政法上根幹タル小學校令ノ精神ヲ闡明シ、併セテ其ノ應用ヲ解説スルコトヲ旨趣トセラルヲ以テ以上舉クル法律勅令ニツキテハ詳説セス。今筆ヲ擱クモ茲ミ、改正小學校令ニ對シ聊カ所感ヲ記シテ結尾トス。

抑モ、明治二十三年十月小學校令發布以來茲ニ十星霜、我カ帝國義務教育ノ制度漸ク確立シ、普通教育ノ進步頗ル觀ルヘキモノアリト雖、國運長足ノ進步ニ比スレハ、之ニ伴ハサル感ナキニアラス。是レ蓋シ輓近世界ノ大勢ニ鑑

改正小學校令
ニ對スル著者
ノ所感

ミ、國家事業ノ經營セラレヘキモノ頗ル多ク、爲ニ大ニ力ヲ教育ニ用フルコト能ハサリシニ、基因スヘント雖、抑モ又、從來小學校設置ノ原則カ小學校令ニ於テ確實ニ表明セラレサリシト、地方自治制度ノ運用尙未タ完備ノ域ニ達セサリシトハ、是カ主ナル原因ナリト云ハサル可ラス。今本年八月改正ノ小學校令ヲ通讀スルニ、二三舊令ト異ル規定ヲ設ケタルノ外、概テ條項ノ整理ト字句ノ修正トニ止マルカ如シト雖、國家カ國民教育ニ對スル見地ヲ明瞭ニシ、自ラ義務教育ヲ遂行スルノ原則ヲ採用シタルノ跡各章ヲ通シテ歴然タルモノアリ。近來自治制度ノ運用漸ク其ノ面目ヲ改ムルノ、時期ニ際シ、小學校令ノ此改正ヲ見ル、庶幾クハ相待チテ教育ヲ普及上進セシメ、以テ國

運ノ振張ニ伴ハシムルコトヲ得ン乎。然レトモ職ヲ市町
 村ノ公務ニ奉シ、若シ身ヲ教育ノ當路ニ置ク者ニシテ、能
 ク新令ノ精神ヲ了得シ、其ノ規定ヲ熟知シテ事ニ從フニ
 非スムハ、文字條章ノ完備モ終ニ何ノ用ヲカ爲サム。是ニ
 於テ乎、教育行政法、特ニ小學教育ニ關スルモノ、講究ハ、
 自今大ニ緊要ノコトナリト信ス。
 本書固ヨリ苑園ノ小冊子ナリト雖モ、抑亦是カ先驅タラ
 サラムヤ。

教育行政法講義（小學教育之部）終

附 録

○小學校令改正ノ要旨並其施行上ノ注意ニ關スル文部大臣ノ

訓令（明治三十三年八月廿二日）
（文部省訓令第十號）

府縣（沖繩縣ヲ除ク）

今般勅令第三百四十四號ヲ以テ小學校令改正發布セラレ文部省令第十四號ヲ以
 テ小學校令施行規則ヲ發布セリ。蓋シ從來ノ小學校令ハ明治二十三年ノ制定
 ニ係リ其ノ施行以來年ヲ閱スルコト已ニ十餘年之ヲ其ノ實施ノ蹟ニ徴シ時勢ノ
 進歩ニ考フルニ改正ヲ要スルモノ少カラス是レ今回小學校令ノ改正發布アルニ
 至リ又施行規則ヲ發布シテ其ノ改正ノ旨趣ニ依リ之カ施行ニ要スル諸般ノ事項
 ヲ總括規定セル所以ナリ。本大臣ハ府縣知事カ能ク改正小學校令ノ旨趣ヲ體
 シ施行規則ニ遵ヒ以テ小學教育ノ施設ヲシテ國運ノ進歩ニ伴ヒ時宜ニ適應セシ
 メンコトヲ望ム爲左ニ小學校令改正ノ要旨ト其ノ施行上特ニ注意ヲ要スルノ點
 ヲ舉示セン。
 小學校ノ教科目ニ於テハ從來其ノ數或ハ多キニ過キ兒童ノ負擔重キニ拘ラス其
 ノ得ル所ノ知識ハ却テ散漫ニ失シ確實ナルヲ得サルノ憂アリ。故ニ教科目ノ

教科目

數ハ成ルヘク之ヲ減少シ兒童心身ノ發育ニ應シテ適切ノ教授ヲ爲シカヲ必須ノ科目ニ集注セシメ務メテ日常生活ノ用ニ資セシメンコトヲ期シ從來ノ加ヘ得ヘキ科目ヲ減シ、除キ得ヘキ科目ヲ増シ、讀書、作文、習字ノ如キ之ヲ國語ノ一科目トセラレタリ。而シテ其ノ教授ハ元相關聯スルモノナルヲ以テ務メテ分離スルノ弊ヲ避ケ相待テ兒童學習ノ知識ヲ完實ナラシメンコトヲ要ス。故ニ其ノ讀ミ方、綴リ方、書キ方ノ教授時間ノ如キハ各々其ノ主トスル所ニ依リ區別シテ教授スルコトヲ得ルモ彼此相資シテ適宜ノ方法ヲ取ルヘシ。又小學校ニ於テ教授ニ用フル假名ノ字體並ニ字音假名遣ノ例ヲ示シ以テ兒童ヲシテ簡便ニ實際ノ應用ニ資シ易カラシメンコトヲ期シ徒ニ複雜繁密ノコトノ爲ニ過度ノ心カヲ費スコトナカラシメ且尋常小學校ニ於テ教授ニ用フル漢字ノ數ヲ凡ソ千二百字内外ニ於テ選用スルコト、セリ。從來小學校ニ於ケル教授ノ實況ヲ視ルニ専ラ力ヲ文字ノ教授ニ盡シテ徳育上智育上肝要ナル事項ニ及フ能ハサルノ憾アリ。而モ猶文字ノ知識確實ヲ闕キ自在ニ之カ應用ヲ爲スヲ得ス蓋學習スル文字ノ數ヲ減シ日常須知ノモノニ限ルトキハ之ニ練熟セシメ易ク從テ應用上ニ於ケル利益却テ多クシテ必要ナル知識技能ヲ得シムルニ於テ亦敢テ不便ヲ感スルコトナキヲ得ン是レ今回尋常小學校ニ於テ教授ニ用フル漢字ノ大體ノ範圍ヲ示

假名ノ字體並
字音假名遣

尋常小學校ニ於テ用フル漢字ノ數

修了若ハ卒業認定ノ法ニシタル所以ナリ。又小學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了若ハ全教科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定メ試験ノ方法ニ依ラサルコトセリ。是レ心身ノ發育未タ十分ナラサル兒童ヲシテ競争心ニ驅ラレ試験前一時ニ過度ノ勉強ヲ爲シ是カ爲ニ往々其ノ心身ノ發育ヲ害スルノミナラス試験ノ爲ニ勉強スルノ陋習ヲ馴致スルヲ避ケンカ爲ナリ。又小學校ニ於ケル每週教授時數ヲ減シ從來其ノ制限尋常小學校ニ在リテハ三十時ナリシヲ二十八時トシ高等小學校ニ在リテハ三十六時ナリシヲ三十時トセリ。是レ小學校ニ於ケル教授ヲシテ特ニ兒童心身ノ發達ニ應セシメノコトヲ期スルカ爲ナリ。其ノ他教則中ニ於ケル數多ノ改正ハ從來ノ實驗ニ徴シテ小學教育ノ目的ヲ全カラシメンカ爲ニ外ナラス。

修了若ハ卒業認定ノ法

每週教授時數

教則中ニ於ケル數多ノ改正

修業年限

修業年限ニ於テハ義務教育ノ年限即チ尋常小學校ノ修業年限ハ三年若ハ四年ニシテ此ノ年限内ニ於テ小學校ノ本旨トスル道德教育及國民教育ノ基礎並ニ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルハ蓋シ爲シ難キ所ナリ。之ヲ歐洲諸國ニ於ケル義務教育ノ年限ニ比スルニ短キコト三四年ナルノミナラス言語文字ノ學習ニ於テ我ハ彼ニ比シ數倍ノ困難アリ。故ニ尋常小學校修業年限ハ之ヲ延長スルノ要アルニ似タレトモ國度民情ニ考ヘ義務教育普及ノ實況ヲ察スレハ未タ

修業年限 延長	高等小 併置	補習科
<p>遠カニ四年以上ニ延長スルヲ許サ、ル事情アリ是ヲ以テ從來三年ナリシモノヲ四年ニ改正スルニ止メラレタリ。是レ義務教育ヲシテ今日ノ國度民情ニ適合シ且其ノ普及上支障少カラシメンコトヲ期スルカ爲ナリ。修業年限ノ延長ハ直ニ之ヲ今日ニ實行シ難キモ將來ノ爲ニ豫メ其ノ準備ヲ爲スハ當ニ務ムヘキ所ナリ。從來修業年限ニ長短アルニ拘ラス同一ノ教科ヲ授クルノ制ナリシヲ改正シテ高等小學校ニ於テハ修業年限ニ應シテ其ノ教科目ヲ斟酌スルコトヲ許シタリ。故ニ二年ノ高等小學校ノ教科目ヲシテ成ルヘク尋常小學校ノ教科目ト相聯絡セシメンコトヲ期シ以テ尋常小學校ニ二年ノ高等小學校ヲ併置スルノ便ヲ圖レリ。從來補習科ノ名義ヲ以テ高等小學校ニ類似セル教科ヲ置キタル場處ノ如キハ成ルヘク之ヲ二年程度ノ高等小學校ノ編制ニ改メテ尋常小學校ニ併置スルノ方法ヲ講スヘシ。而シテ高等小學校ヲ増設スルニ當リテハ資力ヲ量ラスシテ濫ニ修業年限ノ長キモノヲ設ケンヨリモ寧ロ二年程度ノモノ、設置ヲ獎勵スヘシ。</p>	<p>尋常小學校ニ高等小學校ヲ併置スルニ至ルハ希望スル所ナレトモ町村ノ資力或ハ其ノ併置ニ堪ヘサルモノ亦少カラサルヘシ。此ノ如キ場處ニ於テハ補習科ヲ設クルヲ以テ利便多シトス。從來設クル所ノ補習科ハ多クハ通常教授時間内</p>	<p>ニ之ヲ設ケ是カ爲ニ別ニ教室ヲ要シ教員ヲ置クニ至レリ。此ノ如キハ補習科ノ本旨ニ稱フモノニアラス。元來補習科ハ通常教授時間内ニ於テハ學習スルコト能ハサル兒童ヲシテ既修ノ學科ヲ練習補充セシムルヲ旨トス。故ニ補習科ヲ設置スルニハ或ハ夜間ニ於テシ或ハ日曜日ニ於テシ或ハ季節ヲ選ヒテ教授シ既設ノ教室ヲ之ニ利用シ正科ヲ擔任スル教員ヲシテ之ヲ兼擔セシムル等土地ノ情況ヲ斟酌シ專ラ便宜ヲ旨トスヘキナリ。此ノ如キ方法ヲ以テ補習科ヲ設クルトキハ其ノ要スル費用ハ誠ニ少額ヲ以テ辨スルヲ得ヘシ。而シテ小學校ヲ卒リテ後直ニ職業ニ從事スル者ヲシテ其ノ學習セル所ヲ一層實用ニ適應スルニ足ルノ練習補充ヲ爲サシムル爲補習科ヲ設クルハ最モ必要トスル所ナリ。故ニ補習科ハ將來意ヲ用ヒテ其ノ増設ヲ獎勵スヘシ。</p>

就學 ノ關係
<p>ニ之ヲ設ケ是カ爲ニ別ニ教室ヲ要シ教員ヲ置クニ至レリ。此ノ如キハ補習科ノ本旨ニ稱フモノニアラス。元來補習科ハ通常教授時間内ニ於テハ學習スルコト能ハサル兒童ヲシテ既修ノ學科ヲ練習補充セシムルヲ旨トス。故ニ補習科ヲ設置スルニハ或ハ夜間ニ於テシ或ハ日曜日ニ於テシ或ハ季節ヲ選ヒテ教授シ既設ノ教室ヲ之ニ利用シ正科ヲ擔任スル教員ヲシテ之ヲ兼擔セシムル等土地ノ情況ヲ斟酌シ專ラ便宜ヲ旨トスヘキナリ。此ノ如キ方法ヲ以テ補習科ヲ設クルトキハ其ノ要スル費用ハ誠ニ少額ヲ以テ辨スルヲ得ヘシ。而シテ小學校ヲ卒リテ後直ニ職業ニ從事スル者ヲシテ其ノ學習セル所ヲ一層實用ニ適應スルニ足ルノ練習補充ヲ爲サシムル爲補習科ヲ設クルハ最モ必要トスル所ナリ。故ニ補習科ハ將來意ヲ用ヒテ其ノ増設ヲ獎勵スヘシ。</p> <p>就學ニ於テハ之ニ關スル規定ヲ明確ニシテ義務教育ノ施行上不便ナカラシメンコトヲ期セラレタリ。近年各地方ニ於テ學齡兒童ノ調査ヲ精確ニシ就學ノ督促ニ務ムルカ如キモ自今一層義務教育ノ普及ヲ圖リ邑ニ不學ノ戸ナク家ニ不學ノ徒ナカラシメ以テ國基ノ鞏固ヲ圖ルヘキナリ。而シテ改正小學校令中雇傭ニ依リテ學齡兒童ノ就學ヲ妨クルヲ得サルコトヲ規定セラレタルハ苟モ未タ尋常小學校ノ教科ヲ卒ラサル兒童ハ假令貧家ノ子弟ナリト雖モ之ヲ雇傭セサラシム</p>

小學校
ノ職員
代用教
員

少クモ九十日以前ニ其ノ採定シタル圖書ニ關スル必要ノ事項ヲ公布セシムルコト、シテ學年開始ニ至リ採定シタル圖書ノ供給ヲ闕キ教授ニ支障ヲ來スカ如キ憂ナカラシメンコトヲ期シタリ。

小學校ノ職員ニ於テハ正准教員ノ外代用教員ヲ認メラレタリ。是レ實際ノ情況ニ顧ミテ今日ノ時宜ニ應セラレタルニ外ナラス。現在資格アル正教員ノ不足數夥シキ際ニ當リテハ代用教員即チ從來ノ雇教員ヲ採用シテ之ヲ補充セサルヘカラス。是レ今日ニ在リテハ已ムコトヲ得サル所ナリ。而シテ又學校編制ノ規定ニ於テモ最モ教員ノ配置ニ注意シ小學校ニ於テハ單級小學校ト雖モ必ス正教員ヲ置クヲ本體トシ多級小學校ニ於テハ正教員ヲ得難キトキハ必スシモ學級毎ニ正教員ヲ置カスニ學級毎ニ一人ノ割合ヲ以テ置クヲ得ルコト、シテ平均ニ資格アル正教員ノ配置ヲ爲スヲ得シメタリ。故ニ能ク注意シテ獨リ都會ノ地ニ在ル小學校ニ資格アル教員集注シテ僻陬ノ地ニ在ル小學校ハ資格ナキ者ノミヲ以テ充タサル、カ如キ弊ナカラシメンコトヲ要ス。

改正小學校令中以上ニ示ス所ノ外猶從來ノ實驗ニ徴シ時勢ノ進歩ニ考ヘ必要ノ改正ヲ施サレタルモノ多シ。然レトモ以上示ス所ノ如キハ其ノ最モ主要ナルモノナリ。殊ニ改正小學校令ニ於テハ意ヲ用ヒテ從來ノ施設ヲ改造スルノ方

補綴改
善スル
ノ方針

教員ヲ
優遇ス

教員ノ
選任ノ
學事ノ
監督

法ヲ避ケ之ヲ補綴改善スルノ方針ヲ取ラレタリ。蓋往々改正ニ伴フ通弊タル從前ノ施設ヲシテ無効ニ歸セシメ經濟上大ナル變動ヲ生スルニ鑑ミタルナリ。而シテ其施行上ノ手續ノ如キハ之ヲ從來ノ經驗ニ徴シ務メテ簡便ニ從ハンコトヲ期セリ。

小學校教育ノ事タル其ノ實效ヲ奏セント欲スレハ單ニ法規ノ整備ニノミ頼ルコトヲ得ス。必スヤ小學校教員ニ其ノ人ヲ得學事ノ監督其ノ宜キヲ得サルヘカラス。而シテ小學校教員ニ其ノ人ヲ得ント欲スレハ之ヲ優待スルノ道ヲ講スルト之ヲ鼓舞獎勵スルノ法ヲ設クルヲ要ス。近年市町村ハ概テ教員ヲ優遇セントスルノ狀アリ政府モ亦年功加俸ノ制ヲ改メ特別加俸ノ制ヲ新設シ且教育資金ノ一部ヲ以テ教員獎勵ノ費ニ充ツルコトヲ許シタリ。府縣知事ニ於テハ能ク教員ノ選任ニ注意シ有能ヲ獎メ有功ヲ推シ小學校教員ヲシテ各々樂ミテ其ノ職ニ勵精セシメンコトヲ期圖スヘシ。又學事ノ監督ニ關シテハ曩ニ地方官官制ノ改正ニ依リ郡、府縣ニ視學ノ官ヲ置カレタルヲ以テ學事監督ノ機關略々備ハリタリ。今ヤ小學校令ノ改正發布セラレ又小學校令施行規則ヲ發布シタルニ依リ府縣知事ハ能ク其ノ旨趣ヲ體認スルト共ニ深ク小學校教員ノ選任ト學事ノ監督トニ注意シ以テ教育ヲシテ益々實用ニ適セシメ國民教育ノ實效ヲ舉クルニ

於テ遺算ナカラシムコトヲ務ムヘシ。

○同上訓令ニ關スル件(明治三十三年八月廿二日
文部省訓令第十一號)

北海道廳 沖繩縣

明治三十三年文部省訓令第十號ハ其ノ道廳、縣ニ於テモ同様心得ヘシ

○地方學事通則(明治二十三年十月二日
法律第八十九號)

第一條 町村ハ教育事務ノ爲勅令ノ規程ニ依リ町村學校組合ヲ設ク

町村學校組合ニハ町村制第十七條ヲ適用ス

(參照)

町村制

第十七條 町村組合ヲ設クルノ協議ヲ爲ストキハ(第十六條第一項)組合會議ノ組織、事務ノ

管理方法並其費用ノ支辨方法ヲ併セテ規定ス可シ

前條第二項ノ場合ニ於テハ其關係町村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法等其他必要ノ事項ヲ規定

ス可シ若シ其協議整ハサルトキハ郡縣事會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二條 市町村及町村學校組合ハ勅令ノ規程ニ依リ小學校教育事務ノ爲之ヲ數
區ニ分畫ス

前項ノ場合ニ於テ其區ニ區會若クハ區總會ノ設ナキトキハ市制第十三條町
村制第十四條ノ規程ヲ適用ス

一區若クハ數區ヲシテ專ラ使用セシムル小學校ニ關シテハ其區内ニ住居シ若
クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲナス者
ニ於テ設立維持ヲ負擔スヘシ但其區ノ所有財產アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ
其費用ニ充ツヘシ

市制第六十條町村制第六十四條ノ區長並其代理者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其
區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行ス

(參照)

市制

第十三條 市内ノ一區ニシテ特別ニ財產ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其區限リ特ニ其費用(第

九十九條)ヲ負擔スルトキハ府縣事會ハ其市會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財產及營造物ニ關

スル事務ノ爲區會ヲ設クルコトヲ得其會議ハ市會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

町村制

第十四條 町村内ノ區(第六十四條)又ハ町村内ノ一部若クハ合併町村(第四條)ニシテ別ニ其區

域ヲ存シテ一區ヲ爲スモノ特別ニ財產ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ特ニ其費用(第

九十九條)ヲ負擔スルトキハ郡縣事會ハ其町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財產及營造物ニ關

スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設クルコトヲ得其會議ハ町村會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第三條 教育事務ニ關シテハ市町村内ノ區及町村學校組合若クハ其ノ區ニ對シテ市若クハ町村ニ關スル法律ノ規程ヲ適用スルコトヲ得

第四條 町村及町村學校組合若クハ其區ハ郡長ノ指定ニ從ヒ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ノ兒童教育事務ノ委託ニ應スヘシ

第五條 町村學校組合ヲ解ク場合町村學校組合内ノ某町村ヲシテ其小學校數校中ノ一校若クハ若干校ノ設立維持ヲ一町村限リ負擔セシムル場合又ハ町村學校組合内ノ某町村ヲシテ兒童教育事務ノ委託ヲ一町村限リ負擔セシムル場合ニ於テ財產處分ニ付關係町村ノ協議整ハサルトキ 郡參事會ニ於テ之ヲ議決スヘシ

兒童教育事務ノ委託ニ對スル報酬金ノ給否金額及其他必要ノ事項ニ付關係町村ノ協議整ハサルトキモ亦前項ノ例ニ依ル

第六條 府縣郡市町村及町村學校組合ハ教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ

市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ小學校教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クコトヲ得

第七條 市町村立學校長其他校員學務委員及區長並其代理者等ノ執行スル國ノ教育事務ハ市制第三十一條第二本文町村制第三十三條第二本文ニ依ルノ限ニ在ラス

(參照)

市制

第三十一條 市會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 市費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第七十四條ニ掲グルル事務ハ此限ニ在ラス

町村制

第三十三條 町村會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ

一 町村費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第六十九條ニ掲グルル事務ハ此限ニ在ラス

第八條 府縣郡市町村吏員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ其懲戒ノ規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條 附縣郡市町村學校組合及市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ學校基本財産ヲ設クルコトヲ得

學校基本財産ハ單ニ某學校ノ爲之ヲ設ケ又ハ通シテ數學校ノ爲之ヲ設クルコトヲ得

學校基本財産ノ設置及處分ハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ(明治二十九年法律第百八十一號ヲ以テ改正)

學校基本財産ノ收入ヲ教育ニ關スル目的ノ外ニ使用スルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 府縣郡市町村學校組合及市町村內若クハ町村學校組合內ノ區ハ教育ニ關スル寄附金等アルトキハ學校基本財産トナスヘシ但寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

公立學校ノ授業料入學試驗料書器使用料等ハ學校基本財産トナスコトヲ得
附縣郡市町村學校組合及市町村內若クハ町村學校組合內ノ區ハ歲出ノ殘餘ヲ以テ學校基本財産トナシ又ハ特ニ歲入ノ幾分ヲ増加シテ學校基本財産トナスコトヲ得(同)

第十一條 從前學校ノ爲設ケタル積立金等ニシテ市制第八十一條町村制第八十一條ニ依リ市町村基本財産ニ加入シタルモノハ本法實施後二年間ハ府縣郡參事會ノ許可ヲ受ケ之ヲ區分シテ學校基本財産トナスコトヲ得

(參照)

市制

第八十一條 市ハ其不動産、積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ
臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

町村制

第八十一條 町村ハ其不動産、積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ
臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

第十二條 府縣制郡制市制町村制ニ規定シタル內務大臣ノ職務及關係ハ教育ニ關スル事項ニ就キテハ內務文部兩大臣ニ屬スルモノトス

(參照)

勅令第二百二十三號(明治三十三年三月三十日)

市制第二百一十一條第二百二十二條町村制第二百二十五條第二百二十六條及地方學事通則第十二條ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項中左ニ掲ケルモノハ府縣知事ニ於テ之ヲ許可スヘシ

一 市長代理順序、町村助役定員増加、町村長町村助役有給、公告式及學務委員ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スル事

二 地租二分ノ一以下ノ附加稅ヲ賦課スル事

附 則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本法ハ市制町村制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

○市町村立小學校長及教員名稱及待遇(明治二十四年十一月十六日勅令第二百十八號)

○市町村立小學校長及教員名稱及待遇

第一條 市町村立小學校長及教員ノ名稱左ノ如シ

一 小學校長

二 訓導 小學校ノ正教員タル者ノ名稱トス

三 准訓導 小學校ノ准教員タル者ノ名稱トス

第二條 市町村立小學校長及正教員ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク

○公立學校職員等級配當(明治二十五年四月二十八日勅令三十九號)

奏任又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ノ官等級ハ其俸給額ニ應

シ別表ニ依リ文武高等官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス

但同官等又ハ同等級内ニ於テハ文武官吏ノ次席タルヘシ

(別表略ス)

○師範學校及市町村立小學校職員ヲ文官ト同一待遇方(明治二十四年十一月十七日文部省訓令第六號)

北海道廳 府縣

本年十一月十一日勅令第二百十七號師範學校官制第二條及同年十一月十一日勅令第二百十八號市

町村立小學校長及教員名稱及待遇第二條ヲ以テ師範學校及市町村立小學校ノ職

員ハ奏任文官若クハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クルコト、相成リタルニ付テハ

俸給退隱料等ニ關シ特別ノ規程アル事項ヲ除ク外ハ任免席次及其他ニ關シ總テ

奏任文官若クハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クヘキ儀ト心得ヘシ

○公立學校職員ノ同官等又ハ同等級内ニ於ケル席次(明治二十六年五月二十九日文部省訓令第七號)

北海道廳 府縣

奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ノ同官等又ハ同等級

内ノ席次ハ俸給額ニ依リ俸給額同シキトキハ任補ノ前後ニ依リ其他ハ高等官席

次ノ例ニ依ルヘキ儀ト心得ヘシ

○小學校訓導神職寺院住職等交互兼務伺出方(明治二十八年十月十日文部内務兩大臣内訓)

北海道廳長官 府縣知事

土地ノ情況ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ於テ神職又ハ寺院住職等ト小學校訓導ト

交互兼務セシムルノ必要アルトキハ自今氏名事由等ヲ具シ其都度伺出ツヘキ儀

ト心得ヘシ

○市町村立小學校教員俸給ニ關スル規定(明治二十九年十二月二十九日同三十年勅令第二號)

第一條 市町村立小學校組合及其ノ區ハ第三條ノ月俸平均額ニ基キ小學校ノ教

員定數ニ應スル金額ヲ支出スルノ義務アリ但シ市町村町村學校組合及其ノ區ハ土地ノ情況ニ依リ本項ノ義務額ヲ超エタル金額ヲ支出スルコトヲ得

第二條 地方長官ハ前條ノ金額以内ニ於テ各本科正教員ノ俸給額ヲ定ムヘシ
地方長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ市町村町村學校組合及其ノ區ノ同意ヲ得テ前條ノ義務額ヲ超エ各本科正教員ノ俸給額ヲ定ムルコトヲ得但シ區ニ區會若クハ區總會ノ設ナキトキハ其ノ經費ヲ議決スル市町村又ハ町村學校組合ノ同意ヲ得ヘシ

義務額ヲ超エテ俸給ヲ支出スル場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其ノ俸給額ヲ減スルコトヲ得ス

第三條 市町村立尋常小學校本科正教員月俸ノ平均額ハ人口十萬以上ノ市ニ在リテハ十六圓其ノ他ノ市ニ在リテハ十二圓トス

市町村立高等小學校本科正教員月俸ノ平均額ハ人口十萬以上ノ市ニ在リテハ二十圓其他ノ市ニ在リテハ十八圓トシ町村ニ在リテハ十六圓トス

第四條 本科正教員ニ代リ一時教授スル准教員ノ俸給額ニ關シテハ第二條ヲ適用ス

第五條 専科教員及補助教授スル本科准教員ノ俸給額ハ地方長官ニ於テ市參事

會町村長ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ但シ本條ニ依リ一旦定マリタル俸給額以内ニ於テ任用スル教員ノ俸給額ニ關シテハ市參事會町村長ノ意見ヲ聞クノ限ニアラス

第六條 小學校本科教員ノ月俸ハ左表ノ金額ヲ下スコトヲ得ス

尋常小學校		高等小學校		正教員	准教員
		女	男		
六	八	八	十	圓	圓
圓	圓	圓	圓	四	五
圓	圓	圓	圓	圓	圓

第七條 本令施行ノ際既ニ義務額ヲ超エテ教員俸給ヲ支出スル場合ニ於テハ第二條ノ手續ヲ經タルモノト同視ス

第八條 本令中町村町村學校組合及其ノ區ニ關スル規定ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學校設置區域ニ適用シ町村長ニ關スル規定ハ島司郡區長戸長又

ハ之ニ準スヘキ者ニ適用ス
 本令中市及市參事會ニ關スル規定ニシテ特ニ市制町村制ヲ施行セザル地方ニ適用スルノ必要アルトキハ文部大臣之ヲ定ム此ノ場合ニ於テ市參事會ノ職務ハ區長戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

附則

第九條 本令ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第十條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第六十條第二項ハ本令施行ノ日ヨリ削除ス

理由書

小學校教員ハ俸級菲薄ニシテ其位置ニ安ンシ其職責ヲ盡スコト能ハズ爲ニ全國多數ノ缺員アリト雖志望者少ク且現職者ト雖去テ他ノ業ニ就ク者アリ頃者我國自事業務ノ膨脹ニ伴ヒテ人ヲ要スルコト多ク又物價騰貴シテ一般ニ生活ノ度ヲ高メタレハ此趨勢ハ益々極ニ達セントス故ニ政府ハ幾ニ年功加俸ノ法ヲ設ケテ教員優遇ノ意ヲ示シ又市町村ニ於テモ近來漸ク教員ヲ優遇スルノ傾ナキニアラスト雖未タ以テ足レリトス可ラス教員ノ缺乏ヲ感スルコト益々甚シキ今日ニ方リ更ニ優遇ノ方策ヲ講シ以テ現職者ヲ鼓舞スルハ勿論汎ク有爲ノ材アル者ナシテ奮テ教員ノ職ニ從事セシメサルヘカラス是レ本案ヲ發布セントスル所以ナリ仍テ本案各條ノ趣旨ヲ摘記スルコト左ノ如シ

一 現行法令ノ下ニ於テハ市、又ハ町村、又ハ町村學校組合、又ハ市町村內若クハ町村學校組合内ノ

區ヲ以テ小學校設置區域トナシアリ是レ第一條ニ於テ「市町村町村學校組合及其區」云々ト規定シタル所以ナリ又同條ニ於ケル「小學校ノ教員定數」トハ小學校令ニ依リ文部大臣ノ定メタル省令(明治二十四年省令第十二號學級編制等ニ關スル規則)ニ依テ定マリ居ルナリ第一條但書ヲ設ケタルハ市町村等ニ於テ其資力ノ如何ニ依リ本條ノ義務額ヲ超エタル金額ヲ支出セントスルコトハ教員優遇上尤モ惡クヘキコトナレハナリ

一 義務額ヲ超エテ俸給ヲ支出スル場合ト雖市町村等ノ隨意ニ依リ一旦定メタル俸額ヲ溢リニ減少シ爲ニ教員ヲシテ轉任セシムルカ如キコトアラハ甚タ不都合ナレハ第二條第三項ニ於テ必ズ地方長官ノ許可ヲ受ケシムル様之ヲ取締リテ設ケタリ

一 市町村等土地ノ情況ニ依リ或ハ第一條ノ義務額ヲ超エテ俸額ヲ支出セシムルコトノ必要ヲ地方長官認ムルニ於テハ市町村等ノ同意ヲ得テ之ヲ支出セシムルコト隨意タルヘシ但「同意ヲ得テ」トアル上ハ同意ヲ得スシテ強ニ實行セシムルコトヲ得サルハ勿論ナリ(第二條條二項)

一 第三條ニ於テ市町村トニ依リ平均額ノ規定ヲ異ニシタルハ現今事實上ノ調査ニ照シ又ハ生計ノ難易及經濟ノ事情等ヲ酌量シタル者ナリ又市別チテ人口十萬以上ノ市ト其他ノ市トナシタルハ東京大阪等ノ大市ト其他ノ市トハ固ヨリ同一視ス可ラサレハナリ

一 本規則ハ教員ノ優遇ヲ期スルカ爲ニ規定シタルモノナリト雖市町村等チシテ急速ニ義務額マテノ金額ヲ悉皆支出セシメントスルカ如キハ固ヨリ實際ノ事情ニ適マサルモノナレハ土地ノ資力生活及其他ノ情況ニ應ジ教員ノ能不動意ヲ察シ漸次一般教員ノ待遇ヲ厚クスルヲ要ス故ニ第二條第一項ニ依リ俸給額ヲ定ムルニ當テハ熟慮精思務メテ其宜シキヲ制セサルヘカラス

一 本科正教員ニ代リ一時教授スル准教員ハ全ク正教員ト同一ノ職務ヲ執ルヘキモノナレハ其俸給

- ノ如キモ全ク本科正教員ト同一ノ手續ニ依リ定ムルヲ至當トス(第四條)
- 一 專科教員ナルモノハ裁縫唱歌英語ノ如キ某科ニ限リテ教授ヲ擔當スルモノナレハ其受持時間數ノ如キ區々ニシテ爲ニ一定ノ俸額ヲ定ムヘキニアラス補助教授スル本科准教員ノ如キモ其職務ノ性質他ヲ補助スルニ止マリ獨立シテ教授ヲ擔當セサルモノナレハ法令ノ規定ヲ以テ俸額ヲ一定スルノ必要ヲ見ス故ニ是等ハ地方長官ニ於テ市參事會町村長ノ意見ヲ聞キ適宜俸額ヲ定ムルヲ可トス然レトモ本條ノ趣旨タル其人ニ就テ意見ヲ聞クニアラスシテ其市町村ノ資力如何ヲ聞カシムルニ過キサレハ一旦決定シタル俸額内ニ於テ新任用スル教員ノ俸給額ヲ定ムル場合ニハ別ニ市參事會町村長ノ意見ヲ聞クヲ要セサルモノトス(第五條)
- 一 第六條ニ於テ本科正教員ノ最低俸額ヲ定メタリ是レ教員ノ體面上又ハ優遇上洵ニ已ムヲ得サルモノニ出ツルナリ最低未滿ノ俸額ヲ受ケ居ル教員ノ俸額ハ本令施行ト同時ニ増額スヘキハ勿論トス今此増額ヲ見積ルニ全國ニ於テ年額凡八十萬圓ニ過キサルナリ
- 一 本規則施行ノ際既ニ第一條ノ義務額ヲ超エテ教員俸給ヲ支出スル場合ハ第二條ノ手續ヲ經タルモノト同視スルヲ以テ地方長官ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其額ヲ減スルコトヲ許サ、ルナリ(第七條)
- 一 北海道ノ札幌函館ノ如キハ諸般ノ事情ニ於テ市制町村制ヲ施行シタル地方ノ市ニ該當スルモノナレハ或ハ本規則ニ關シ市ト同一ニ取扱フノ必要ナルヘシ是レ第八條第二項ノ規定アル所以ナリ
- 一 本規則施行上ハ地方長官ニ於テ教員ノ俸給ヲ定ムルニ當リ一々市參事會町村長ノ意見ヲ聞カサ

ルヘカラサルノ規定ハ之ヲ廢止スルヲ要ス尙ホ其旅費ニ就テモ從來ノ實況ニ徴シ斯ル規定ノ必要ヲ認メス是レ小學校令第六十條第二項ヲ削除スル所以ナリ(第十條)

○市町村立小學校教育費國庫補助法

(明治三十三年三月十五日)
法律第六十三號

- 第一條 市町村立小學校教育費ヲ補助スル爲國庫ハ毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス
- 第二條 前條ノ補助金ハ市町村立小學校教員ノ年功加俸及市町村立尋常小學校教員ノ特別加俸ニ充ツ其加俸ニ關スル方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 第一條ノ補助金ハ學齡兒童數及就學兒童數ノ和ニ比例シテ之ヲ北海道廳及府縣ニ配賦ス
- 北海道廳及沖繩縣ノ配賦金ハ文部大臣之ヲ管理シ其ノ他ハ之ヲ府縣ニ下付スヘシ

附 則

- 第四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス
- 第五條 市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法及小學校教育費國庫補助法ハ之ヲ發止ス

第六條 本法施行ノ際市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法ニ依リ現ニ年功加俸ヲ受クル者ニハ同一學校ニ勤續スル間仍其ノ加俸ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ本法ニ依リ年功加俸ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ支給スル金額ハ第三條ノ配賦金ヨリ支出ス

〔第五條ニ依リ從前ノ年功加俸ハ廢止ニ屬シ第六條ニ依リ從前ノ年功加俸ニ基ク支給金ヲ受クル權利ヲ認メラル尙加俸令第十一條ト參照セヨ〕

○市町村立小學校教員加俸令（明治三十三年三月三十日勅令第百三十三號）

第一條 沖繩縣ヲ除クノ外府縣ハ市町村立小學校教育費國庫補助法第三條第二項ノ下付金ヲ以テ市町村立小學校教員加俸資金トナシ特別會計ヲ設置スヘシ

前項ノ資金ハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第二條 市町村立小學校教員加俸資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第三條 市町村立小學校教員ニシテ五箇年以上同一府縣内ノ市町村立小學校ニ勤續シ地方長官ニ於テ成績佳良ナリト認メタル者ニハ年功加俸ヲ給ス

年功加俸ハ正教員ニ在リテハ年額二十四圓トシ准教員ニ在リテハ年額十八圓トス但シ年功加俸ヲ受ケタル後勤續年數五箇年ヲ加フル毎ニ正教員ニ在リテ

ハ年額十八圓ヲ加ヘ准教員ニ在リテハ年額十二圓ヲ加フルコトヲ得

第四條 兵役ニ服スル爲其ノ職ヲ去リタル者兵役ヲ終リタル後九十日以内更ニ就職シタルトキハ前後ノ在職年數ヲ勤續年數ニ通算ス學校ノ廢止若ハ學校編制ノ變更ニ因リ退リシタル者六十日以内更ニ就職シタルトキ亦同シ

第五條 師範學校訓導ニ在職シタル年數ハ之ヲ勤續年數ニ通算ス

第六條 年功加俸ヲ受クル者懲戒處分ヲ受ケタルトキ又地方長官ニ於テ成績佳良ナラスト認メタルトキハ年功加俸ヲ支給セス

第七條 市町村立尋常小學校本科正教員ニシテ單級學校ニ勤務スル者ニハ年額二十四圓以下ノ特別加俸ヲ給ス其ノ僻陬ノ地ニ在ル多級學校ニ勤務スル者ニハ地方長官ニ於テ必要ト認メタルトキハ年額十八圓以下ノ特別加俸ヲ給スルコトヲ得

第八條 小學校令ヲ施行セサル地方ニ於ケル訓導及訓導ノ資格アル學校長ハ本令ニ於テ本科正教員ト看做ス

第九條 市町村立小學校教員加俸給與ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附 則